
南丹市都市計画マスタープラン、
及び南丹市緑の基本計画の
策定のための市民アンケート調査

集計結果



平成21年3月

南丹市

【 目 次 】

第1部 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の期間	1
3. 調査の対象及び回収状況	1

第2部 調査結果の概要

1. 回答者の性別	2
2. 回答者の年齢	2
3. 回答者の居住地	2
4. 回答者の居住歴	3
5. 回答者の最も利用する交通手段	3
6. 都市の目指す姿	4
7. 旧町の中心部の今後のあり方	7
8. 土地利用の方針	10
9. 身近な生活環境の整備方針	13
10. 交通体系の整備方針	16
11. 景観づくりの方針	19
12. 災害に強いまちづくりの方針	22
13. 公園緑地の整備方針	25
14. 生産緑地地区の認知度	28
15. 緑化推進方針	30
16. まちづくり活動への興味	33
17. 市民主役のまちづくりの重要性	36
自由意見	39

第3部 資料編

1. アンケート調査票	41
-------------	----

第1部 調査の概要

1. 調査の目的

平成18年1月に園部町、八木町、日吉町、美山町が合併し南丹市がスタートしました。現在、南丹市では市民が主役となるちづくりの実現に向けて、「南丹市都市計画マスタープラン」の策定作業を進めています。また、都市計画マスタープランに適合するまちづくりに関する個別計画のひとつである「南丹市緑の基本計画」についても策定作業を進めています。

本調査は、南丹市民のみなさんのご意見をこれらの計画に反映していくことを目的として実施したものです。

2. 調査の期間

平成20年12月16日～平成21年1月10日

3. 調査の対象及び回収状況

本アンケート調査は、市内在住の16歳以上の方を対象に2,000人を無作為に抽出し、郵送による配布・回収方式で実施しています。

回収状況は、次の通りです。

配布数	2,000
回収数	893
回収率	44.7%

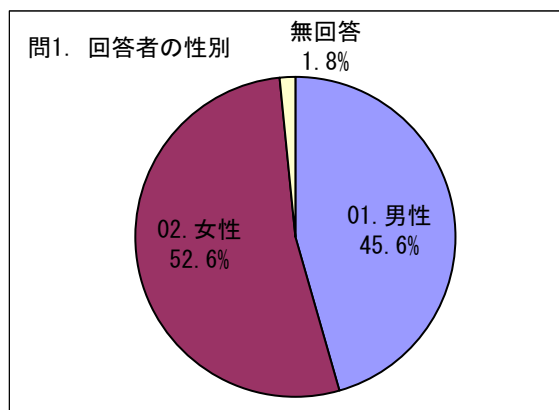
第2部 調査結果の概要

はじめに、あなた自身のことについて、お聞かせください。

問1：あなたの性別（1つ選択）

表1 回答者の性別

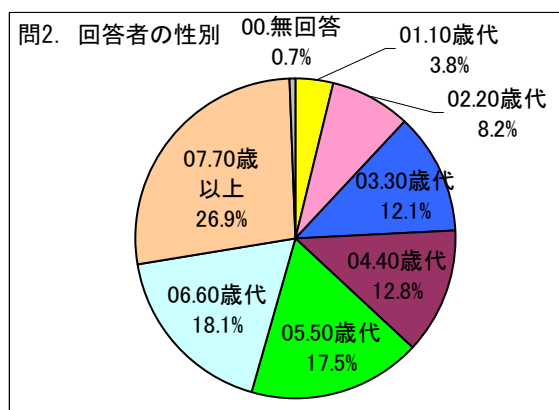
性別	回収数	構成比
01. 男性	407	45.6%
02. 女性	470	52.6%
00. 無回答	16	1.8%
合計	893	100.0%



問2：あなたの年齢（1つ選択）

表2 回答者の年齢

年齢別	回収数	構成比
01. 10歳代	34	3.8%
02. 20歳代	73	8.2%
03. 30歳代	108	12.1%
04. 40歳代	114	12.8%
05. 50歳代	156	17.5%
06. 60歳代	162	18.1%
07. 70歳以上	240	26.9%
00. 無回答	6	0.7%
合計	893	100.0%



問3：あなたのお住まいの地域（1つ選択）

表3 回答者の居住地

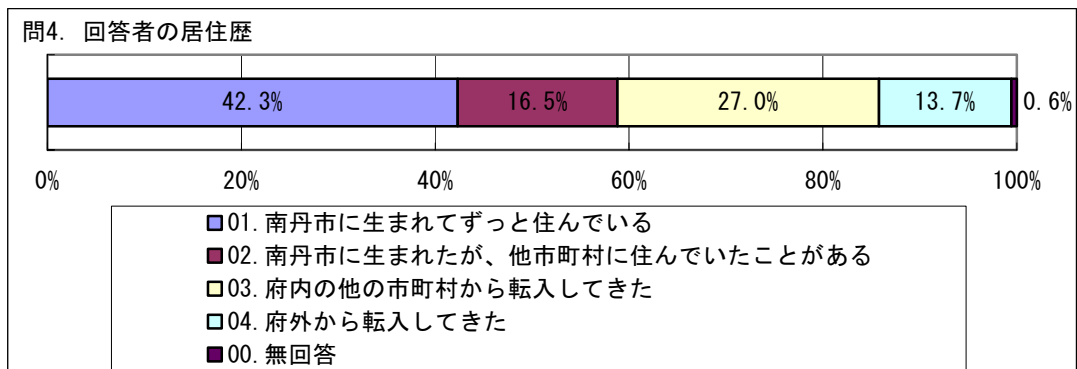
地区別	回収数	構成比
01. 園部小学校区	199	22.3%
02. 園部第二小学校区	80	9.0%
03. 川辺小学校区	27	3.0%
04. 摩気小学校区	54	6.0%
05. 西本梅小学校区	33	3.7%
06. 八木小学校区	68	7.6%
07. 富本小学校区	67	7.5%
08. 新庄小学校区	27	3.0%
09. 吉富小学校区	45	5.0%
10. 神吉小学校区	10	1.1%

地区別	回収数	構成比
11. 殿田小学校区	71	8.0%
12. 胡麻郷小学校区	66	7.4%
13. 平屋小学校区	25	2.8%
14. 知井小学校区	15	1.7%
15. 宮島小学校区	33	3.7%
16. 鶴ヶ岡小学校区	22	2.5%
17. 大野小学校区	26	2.9%
18. わからない	18	2.0%
00. 無回答	7	0.8%
合計	893	100.0%

問4：あなたの居住歴（1つ選択）

表4 回答者の居住歴

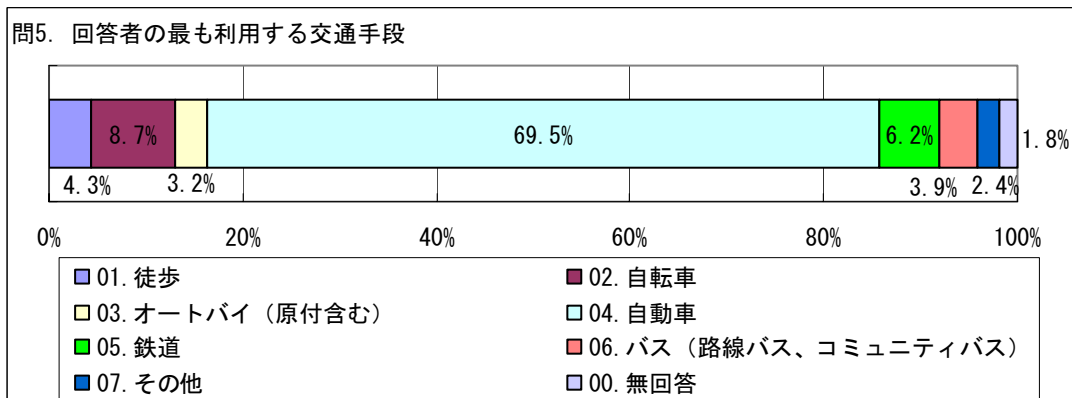
居住経験別	回収数	構成比
01. 南丹市に生まれてずっと住んでいる	378	42.3%
02. 南丹市に生まれたが、他市町村に住んでいたことがある	147	16.5%
03. 府内の他の市町村から転入してきた	241	27.0%
04. 府外から転入してきた	122	13.7%
00. 無回答	5	0.6%
合 計	893	100.0%



問5：あなたの最も利用する交通手段（1つ選択）

表5 回答者の最も利用する交通手段

交通手段別	回収数	構成比
01. 徒歩	38	4.3%
02. 自転車	78	8.7%
03. オートバイ（原付含む）	29	3.2%
04. 自動車	621	69.5%
05. 鉄道	55	6.2%
06. バス（路線バス、コミュニティバス）	35	3.9%
07. その他	21	2.4%
00. 無回答	16	1.8%
合 計	893	100.0%



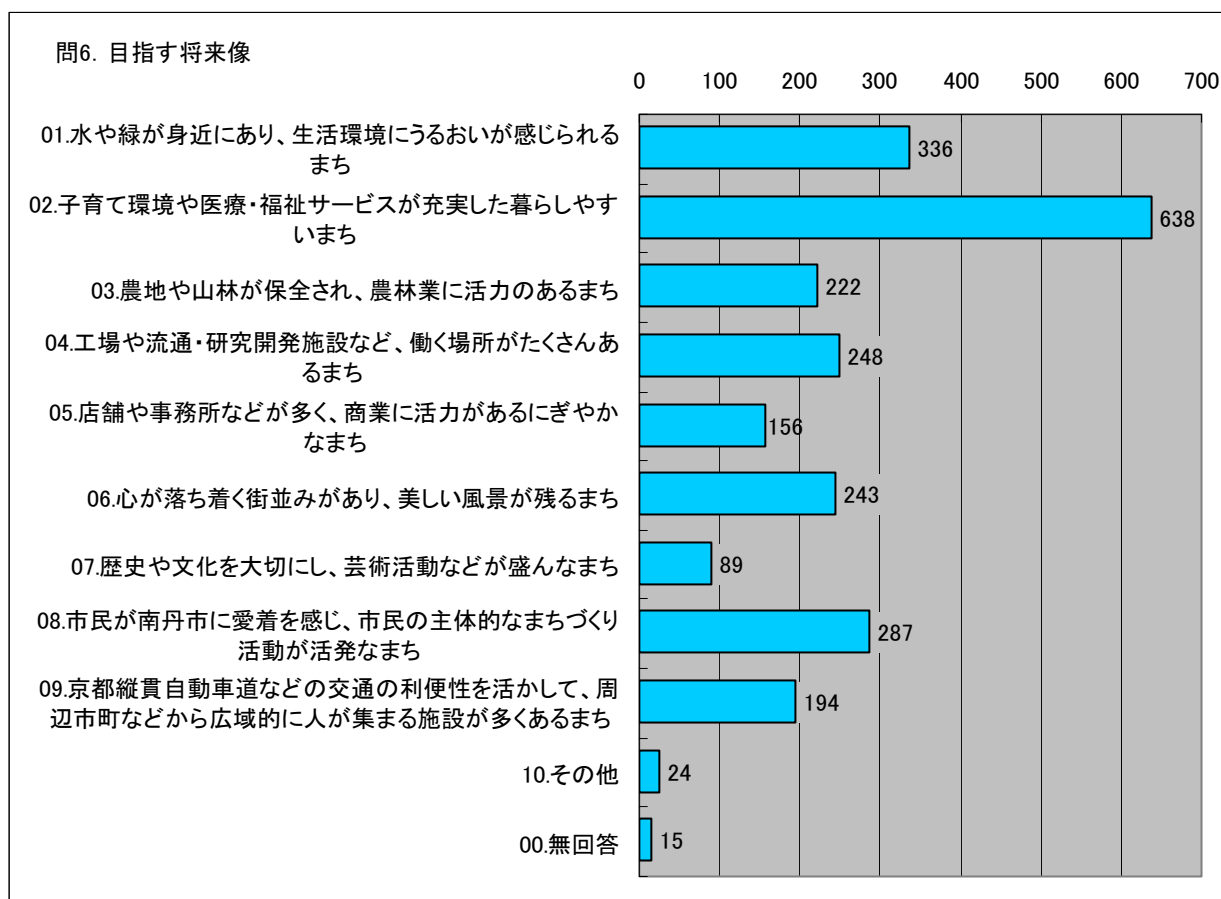
1. 南丹市が目指す将来像について、お聞かせください。

問6：今後、南丹市は、どのような都市を目指して重点的にまちづくりを進めていくべきだと考えますか。（3つまで選択）

(1) 全体の傾向

どのような都市を目指すかについては、約7割の方が「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」（71.4%）を選択しており、次いで「01. 水や緑が身近にあり、生活環境にうるおいが感じられるまち」（37.6%）が多くなっています。特に、「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」という、ハードではない項目が選択されていることが特徴となっています。

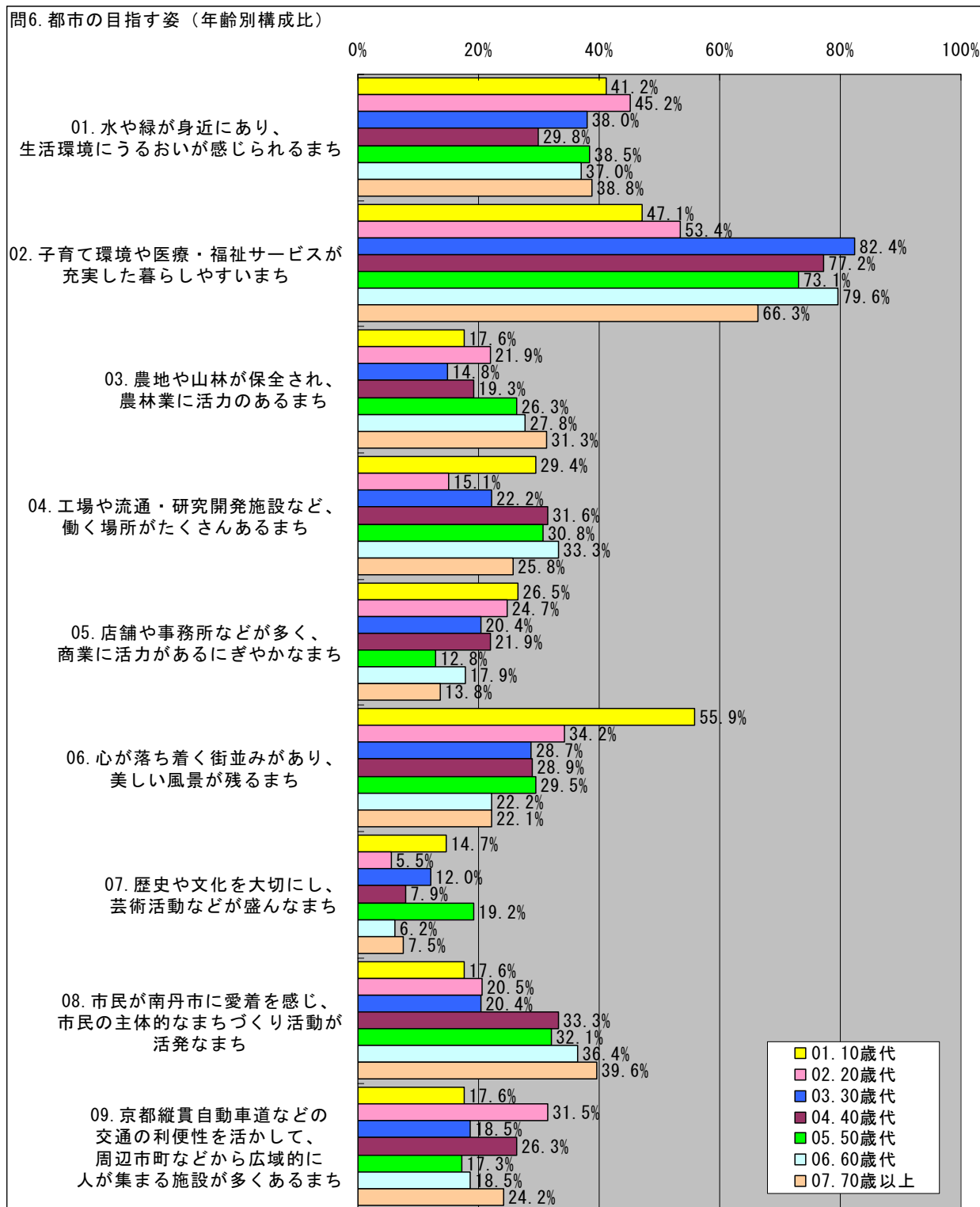
また、「08. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち」（32.1%）も多く、まちづくり活動が活発なまちを望んでいることがうかがえます。



(2) 年齢別の傾向

10歳代を除く各年代で「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」が最も多く選択されています。10歳代では、「06. 心が落ち着く街並みがあり、美しい風景が残るまち」(55.9%)が最も多くなっています。

年代が高くなるにつれて「08. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち」を選択する割合が高くなる傾向にあり、70歳以上では39.6%となっています。



(3) 地区別の傾向

全体と同様、全ての地区で「02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち」が最も多く選択されています。第2位、第3位も全体とほぼ同様の結果となっていますが、旧日吉町、旧美山町では「03. 農地や山林が保全され、農林業に活力のあるまち」も多く選択されています。

表6 都市の目指す姿（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 水や緑が身近にあり、生活環境にうるおいが感じられるまち	37.6%	33.2%	45.0%	44.4%	31.5%	39.4%	33.8%	38.8%	55.6%
02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち	71.4%	74.9%	81.3%	59.3%	72.2%	81.8%	70.6%	73.1%	66.7%
03. 農地や山林が保全され、農林業に活力のあるまち	24.9%	17.1%	15.0%	29.6%	27.8%	42.4%	8.8%	10.4%	29.6%
04. 工場や流通・研究開発施設など、働く場所がたくさんあるまち	27.8%	29.1%	22.5%	25.9%	25.9%	21.2%	27.9%	29.9%	18.5%
05. 店舗や事務所などが多く、商業に活力があるにぎやかなまち	17.5%	25.1%	18.8%	3.7%	18.5%	12.1%	29.4%	19.4%	11.1%
06. 心が落ち着く街並みがあり、美しい風景が残るまち	27.2%	29.1%	30.0%	29.6%	25.9%	12.1%	33.8%	25.4%	40.7%
07. 歴史や文化を大切にし、芸術活動などが盛んなまち	10.0%	11.6%	11.3%	14.8%	14.8%	12.1%	1.5%	10.4%	18.5%
08. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち	32.1%	28.6%	31.3%	29.6%	35.2%	45.5%	38.2%	38.8%	18.5%
09. 京都縦貫自動車道などの交通の利便性を活かして、周辺市町などから広域的に人が集まる施設が多くあるまち	21.7%	27.1%	25.0%	25.9%	24.1%	9.1%	20.6%	19.4%	7.4%
10. その他	2.7%	1.5%	3.8%	3.7%	1.9%	0.0%	1.5%	6.0%	0.0%

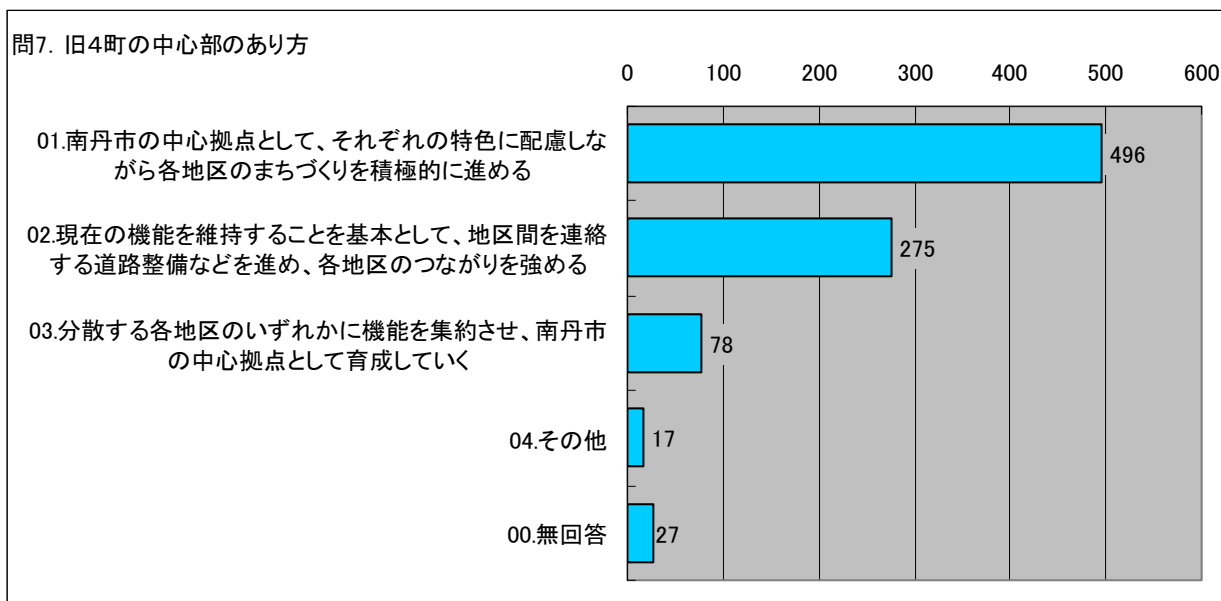
	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 水や緑が身近にあり、生活環境にうるおいが感じられるまち	37.8%	20.0%	31.0%	40.9%	24.0%	20.0%	39.4%	50.0%	53.8%
02. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち	64.4%	60.0%	73.2%	69.7%	72.0%	86.7%	72.7%	50.0%	65.4%
03. 農地や山林が保全され、農林業に活力のあるまち	31.1%	50.0%	42.3%	16.7%	52.0%	33.3%	48.5%	36.4%	42.3%
04. 工場や流通・研究開発施設など、働く場所がたくさんあるまち	13.3%	20.0%	32.4%	30.3%	28.0%	40.0%	48.5%	31.8%	15.4%
05. 店舗や事務所などが多く、商業に活力があるにぎやかなまち	11.1%	10.0%	14.1%	19.7%	12.0%	0.0%	6.1%	4.5%	3.8%
06. 心が落ち着く街並みがあり、美しい風景が残るまち	26.7%	20.0%	18.3%	28.8%	36.0%	13.3%	21.2%	27.3%	30.8%
07. 歴史や文化を大切にし、芸術活動などが盛んなまち	8.9%	0.0%	8.5%	7.6%	12.0%	0.0%	3.0%	18.2%	15.4%
08. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち	35.6%	30.0%	32.4%	30.3%	40.0%	53.3%	24.2%	40.9%	23.1%
09. 京都縦貫自動車道などの交通の利便性を活かして、周辺市町などから広域的に人が集まる施設が多くあるまち	33.3%	30.0%	14.1%	30.3%	4.0%	13.3%	9.1%	4.5%	19.2%
10. その他	2.2%	0.0%	2.8%	4.5%	0.0%	6.7%	6.1%	0.0%	3.8%

(各地区毎の選択順位 : 第1位 : 第2位 : 第3位)

問7：旧4町のそれぞれの中心となっていた地区（現在の南丹市役所、各支所の周辺）の今後のあり方について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。（1つ選択）

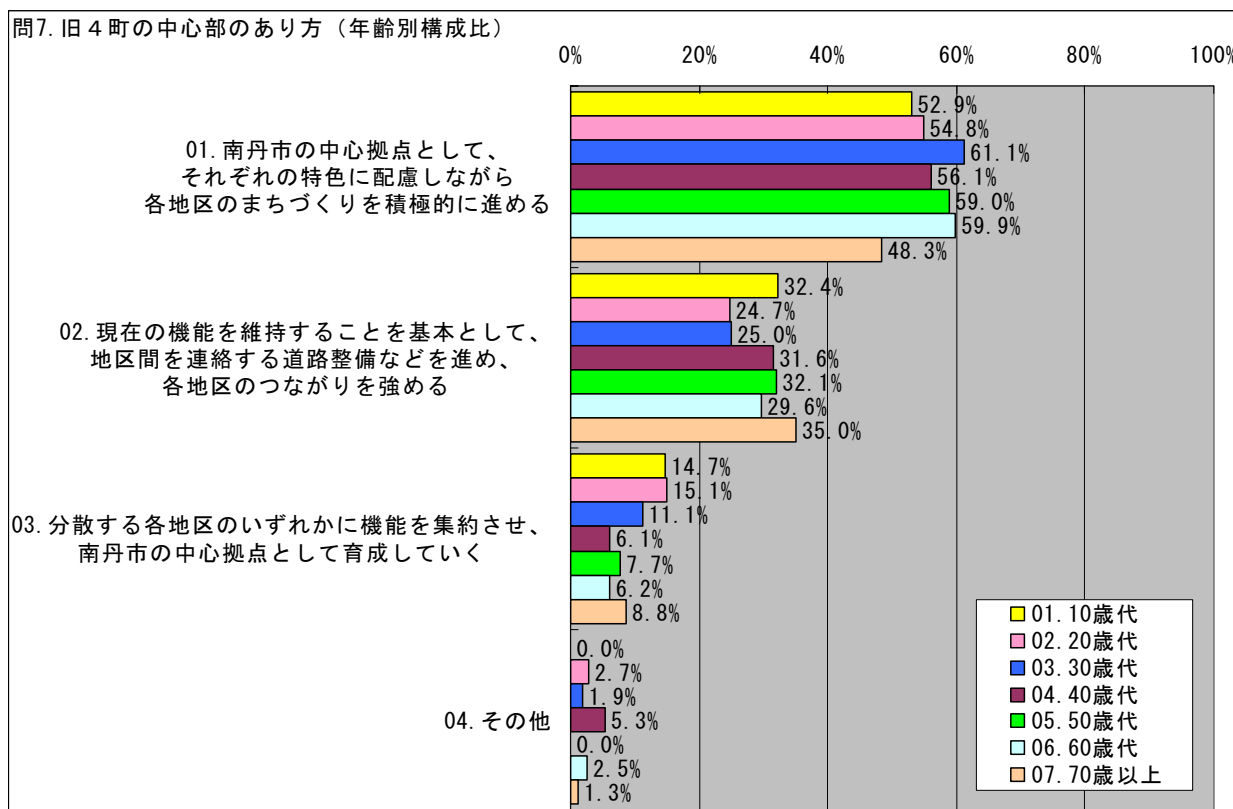
(1) 全体の傾向

旧4町の中心部のあり方については、「01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める」（55.5%）を選択する方が半数以上を占めています。次いで、「02. 現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める」（30.8%）を選択する方が約3割を占めています。



(2) 年齢別の傾向

全体と同様、全ての年代で「01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める」が最も多く選択されています。10歳代、20歳代では「03. 分散する各地区のいずれかに機能を集約させ、南丹市の中心拠点として育成していく」が他の年代に比べて多く選択されています。



(3) 地区別の傾向

旧園部町、旧八木町の地区では「01.南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める」が最も多く選択されているのに対して、旧日吉町、旧美山町では「02.現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める」が最も多い地区もみられます。

表7 旧4町の中心部のあり方（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める	55.5%	60.8%	68.8%	51.9%	63.0%	57.6%	55.9%	52.2%	70.4%
02. 現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める	30.8%	21.6%	18.8%	40.7%	18.5%	36.4%	26.5%	34.3%	22.2%
03. 分散する各地区のいずれかに機能を集約させ、南丹市の中心拠点として育成していく	8.7%	12.1%	11.3%	3.7%	16.7%	6.1%	13.2%	3.0%	7.4%
04. その他	1.9%	1.5%	1.3%	3.7%	1.9%	0.0%	1.5%	6.0%	0.0%

	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める	64.4%	50.0%	38.0%	51.5%	40.0%	40.0%	48.5%	59.1%	46.2%
02. 現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める	28.9%	30.0%	43.7%	40.9%	52.0%	46.7%	42.4%	36.4%	46.2%
03. 分散する各地区のいずれかに機能を集約させ、南丹市の中心拠点として育成していく	6.7%	20.0%	9.9%	0.0%	4.0%	13.3%	6.1%	0.0%	0.0%
04. その他	0.0%	0.0%	1.4%	1.5%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	7.7%

(各地区毎の選択順位

ピンク：第1位

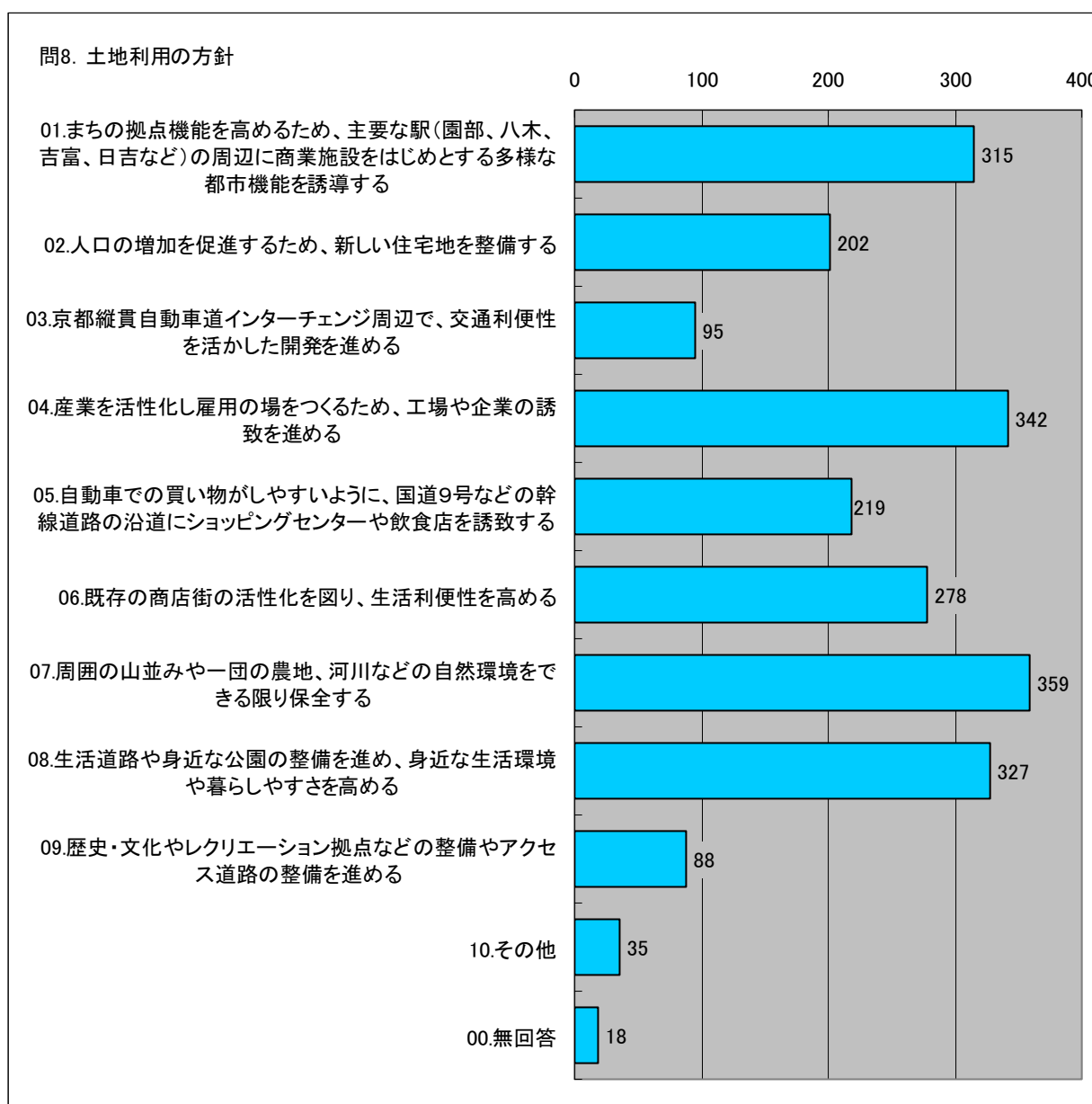
うす黄：第2位)

2. 今後のまちづくりの施策・進め方について、お聞かせください。

問8：まちづくりの基本となる南丹市の土地利用の方針として、今後、どのように進めていくべきだと考えますか。（3つまで選択）

(1) 全体の傾向

土地利用の方針については、他の設問に比べて意見が分散する傾向にありますが、「07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する」（40.2%）が最も多く選択されており、次いで「04. 産業を活性化し、雇用の場をつくるため、工場や企業の誘致を進める」（38.3%）、「08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める」（36.6%）の順となっています。



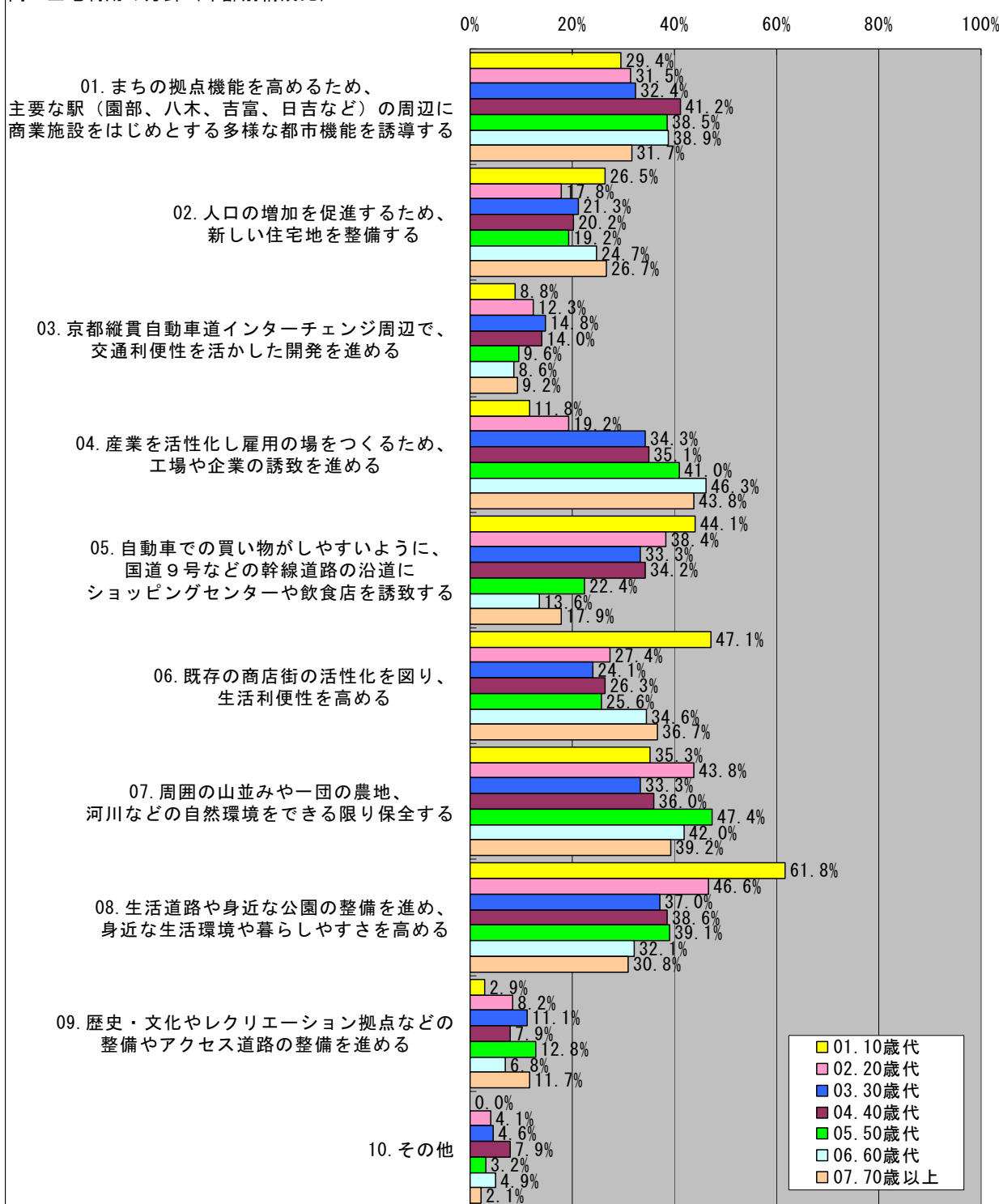
(2) 年齢別の傾向

「07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する」は全ての年代で多く選択されています。

10歳代では「08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める」(61.8%)、「06. 既存の商店街の活性化を図り、生活利便性を高める」(47.1%)などの暮らしやすさ、利便性に関する項目が多く選択されています。

「04. 産業を活性化し、雇用の場をつくるため、工場や企業の誘致を進める」は年代が高くなるに従って多く選択される傾向にあります。

問8. 土地利用の方針（年齢別構成比）



(3) 地区別の傾向

郊外部では、「07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する」、「08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める」などが多く選択される傾向にあります。

表 8 土地利用の方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. まちの拠点機能を高めるため、主要な駅の周辺に商業施設をはじめとする多様な都市機能を誘導する	35.3%	32.7%	53.8%	48.1%	35.2%	24.2%	45.6%	40.3%	22.2%
02. 人口の増加を促進するため、新しい住宅地を整備する	22.6%	15.6%	15.0%	18.5%	18.5%	12.1%	55.9%	35.8%	40.7%
03. 京都縦貫自動車道インターチェンジ周辺で、交通利便性を活かした開発を進める	10.6%	16.6%	12.5%	7.4%	14.8%	6.1%	2.9%	7.5%	0.0%
04. 産業を活性化し雇用の場をつくるため、工場や企業の誘致を進める	38.3%	36.7%	33.8%	48.1%	35.2%	42.4%	36.8%	34.3%	25.9%
05. 自動車での買い物がしやすいように、国道9号などの幹線道路の沿道にショッピングセンターや飲食店を誘致する	24.5%	29.6%	35.0%	22.2%	27.8%	18.2%	17.6%	25.4%	22.2%
06. 既存の商店街の活性化を図り、生活利便性を高める	31.1%	33.7%	27.5%	18.5%	33.3%	42.4%	36.8%	26.9%	14.8%
07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する	40.2%	36.2%	40.0%	55.6%	38.9%	54.5%	23.5%	37.3%	48.1%
08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める	36.6%	33.2%	33.8%	48.1%	48.1%	45.5%	32.4%	31.3%	37.0%
09. 歴史・文化やレクリエーション拠点などの整備やアクセス道路の整備を進める	9.9%	9.5%	5.0%	7.4%	11.1%	12.1%	4.4%	9.0%	18.5%
10. その他	3.9%	3.5%	2.5%	7.4%	1.9%	3.0%	1.5%	6.0%	7.4%

	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. まちの拠点機能を高めるため、主要な駅の周辺に商業施設をはじめとする多様な都市機能を誘導する	60.0%	10.0%	45.1%	37.9%	4.0%	6.7%	12.1%	13.6%	3.8%
02. 人口の増加を促進するため、新しい住宅地を整備する	33.3%	40.0%	15.5%	13.6%	16.0%	26.7%	27.3%	18.2%	7.7%
03. 京都縦貫自動車道インターチェンジ周辺で、交通利便性を活かした開発を進める	22.2%	10.0%	5.6%	7.6%	8.0%	0.0%	9.1%	4.5%	15.4%
04. 産業を活性化し雇用の場をつくるため、工場や企業の誘致を進める	26.7%	50.0%	45.1%	40.9%	40.0%	40.0%	60.6%	40.9%	38.5%
05. 自動車での買い物がしやすいように、国道9号などの幹線道路の沿道にショッピングセンターや飲食店を誘致する	31.1%	20.0%	19.7%	16.7%	16.0%	33.3%	9.1%	13.6%	23.1%
06. 既存の商店街の活性化を図り、生活利便性を高める	22.2%	40.0%	31.0%	34.8%	48.0%	40.0%	33.3%	13.6%	34.6%
07. 周囲の山並みや一団の農地、河川などの自然環境をできる限り保全する	26.7%	50.0%	35.2%	45.5%	36.0%	53.3%	57.6%	72.7%	53.8%
08. 生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める	31.1%	40.0%	36.6%	42.4%	68.0%	46.7%	27.3%	27.3%	34.6%
09. 歴史・文化やレクリエーション拠点などの整備やアクセス道路の整備を進める	11.1%	10.0%	8.5%	15.2%	16.0%	6.7%	12.1%	9.1%	15.4%
10. その他	2.2%	0.0%	2.8%	6.1%	4.0%	13.3%	3.0%	0.0%	7.7%

（各地区毎の選択順位

ピンク：第1位

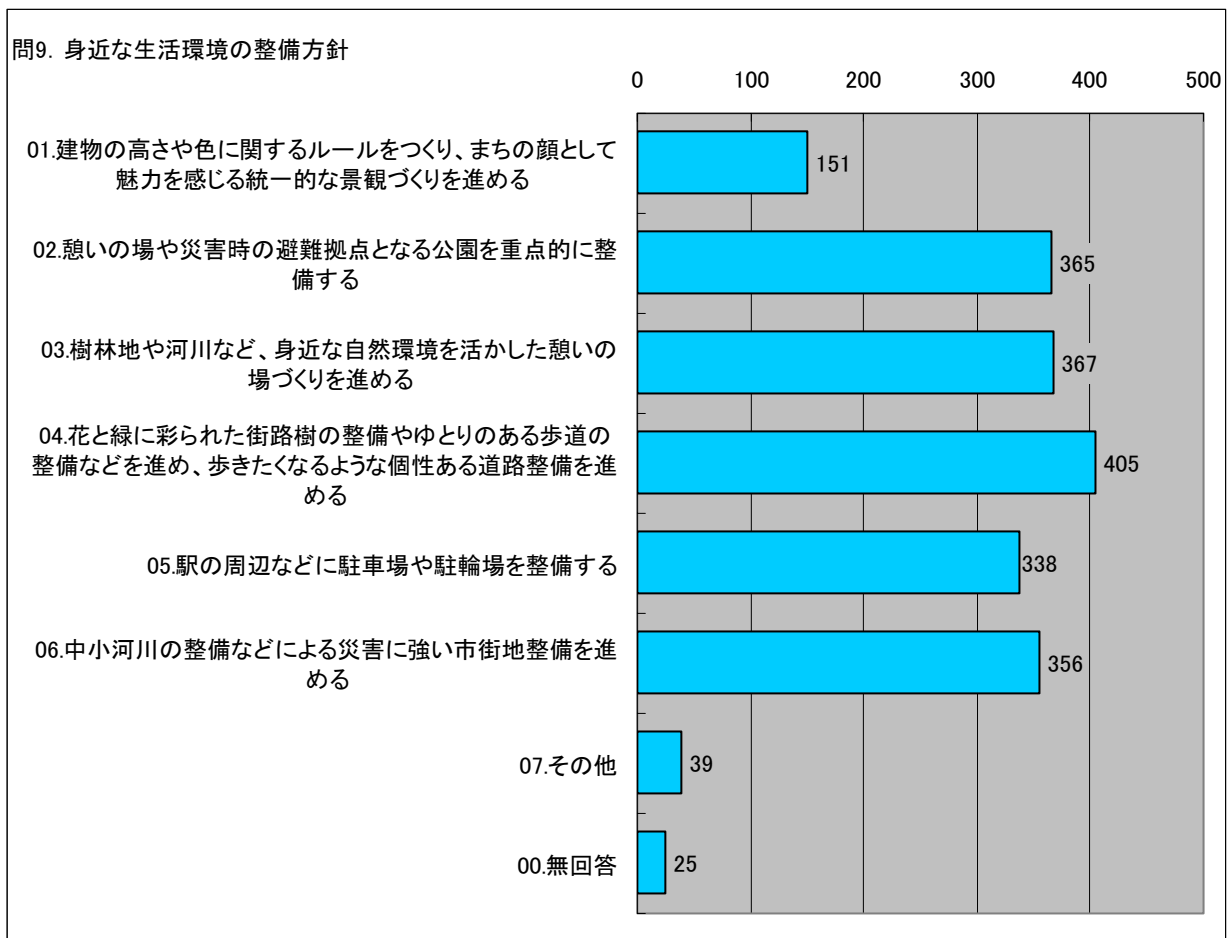
うす黄：第2位

うす青：第3位）

問9：身近な生活環境の整備のあり方について、今後、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。（3つまで選択）

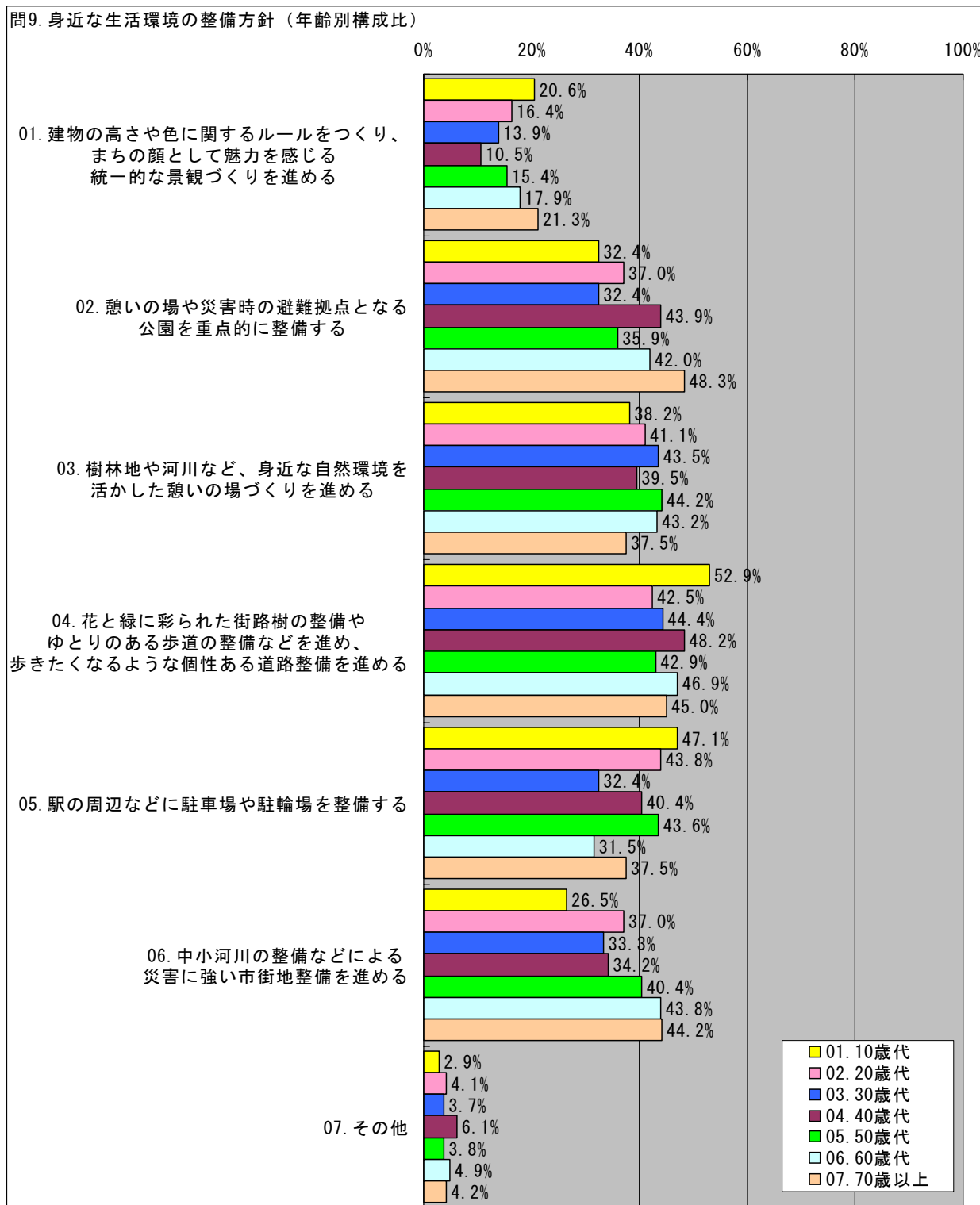
(1) 全体の傾向

身近な生活環境の整備方針についても意見が分散する傾向にあり、「04. 花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める」（45.4%）が最も多く選択されていますが、「01. 建物の高さや色に関するルールをつくり、まちの顔として魅力を感じる統一的な景観づくりを進める」（16.9%）を除く他の項目についても約4割の方が選択しています。



(2) 年齢別の傾向

年代が高くなるに従って、「02. 憩いの場や災害時の避難拠点となる公園を重点的に整備する」、「06. 中小河川の整備などによる災害に強い市街地整備を進める」を選択する割合が高くなっていきます。



(3) 地区別の傾向

郊外部では、「03. 樹林地や河川など、身近な自然環境を活かした憩いの場づくりを進める」を選択する割合が高く、市街地部では「04. 花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める」を選択する割合が高くなっています。

表9 身近な生活環境の整備方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 建物の高さや色に関するルールをつくり、まちの顔として魅力を感じる統一的な景観づくりを進める	16.9%	17.1%	13.8%	29.6%	25.9%	18.2%	17.6%	11.9%	22.2%
02. 憩いの場や災害時の避難拠点となる公園を重点的に整備する	40.9%	41.2%	52.5%	55.6%	44.4%	39.4%	36.8%	41.8%	33.3%
03. 樹林地や河川など、身近な自然環境を活かした憩いの場づくりを進める	41.1%	38.2%	33.8%	48.1%	40.7%	45.5%	38.2%	37.3%	40.7%
04. 花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める	45.4%	49.7%	50.0%	40.7%	40.7%	36.4%	33.8%	44.8%	44.4%
05. 駅の周辺などに駐車場や駐輪場を整備する	37.8%	34.7%	37.5%	22.2%	37.0%	30.3%	42.6%	56.7%	51.9%
06. 中小河川の整備などによる災害に強い市街地整備を進める	39.9%	36.2%	37.5%	63.0%	48.1%	63.6%	33.8%	20.9%	14.8%
07. その他	4.4%	3.5%	5.0%	3.7%	1.9%	3.0%	1.5%	9.0%	3.7%

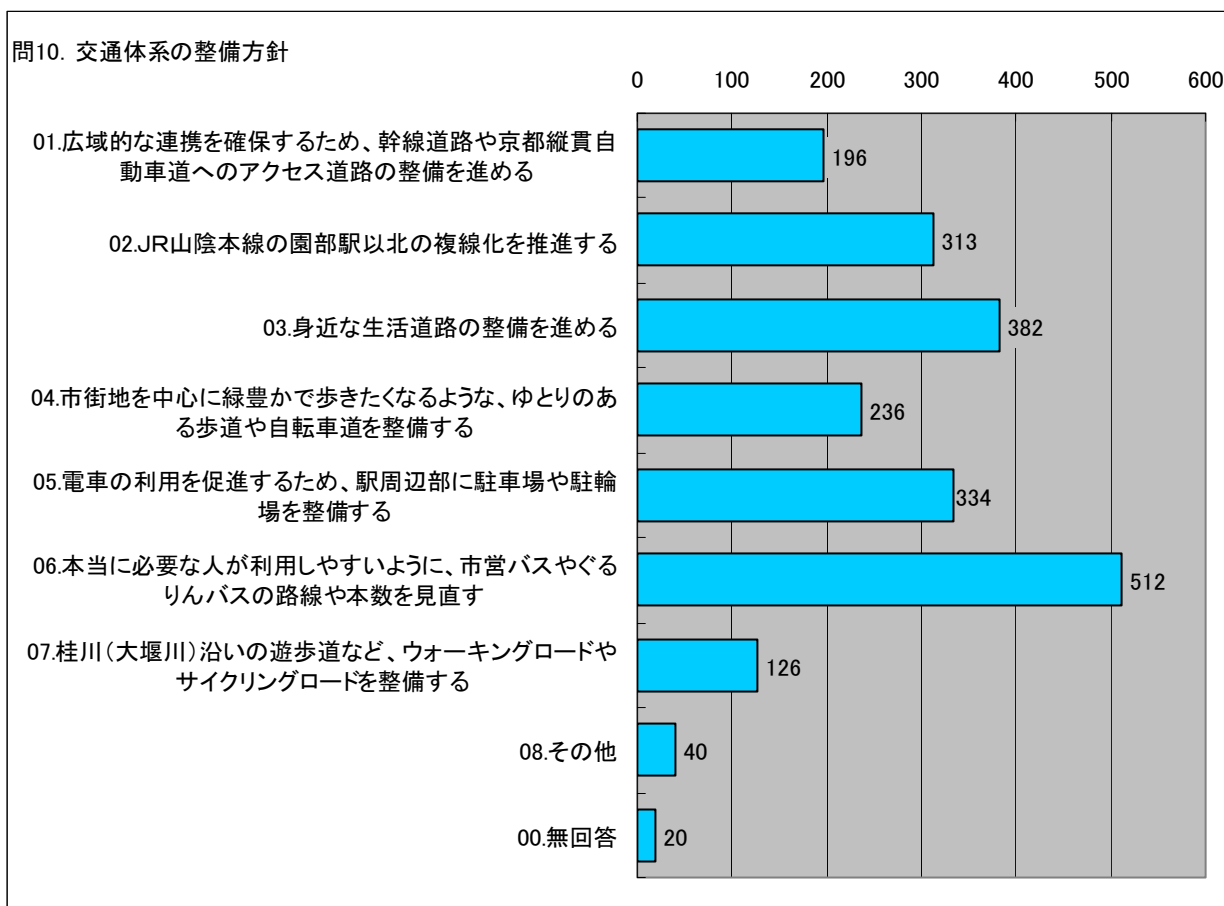
	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 建物の高さや色に関するルールをつくり、まちの顔として魅力を感じる統一的な景観づくりを進める	17.8%	0.0%	7.0%	6.1%	20.0%	26.7%	21.2%	27.3%	30.8%
02. 憩いの場や災害時の避難拠点となる公園を重点的に整備する	37.8%	30.0%	46.5%	36.4%	32.0%	40.0%	33.3%	31.8%	23.1%
03. 樹林地や河川など、身近な自然環境を活かした憩いの場づくりを進める	46.7%	50.0%	29.6%	42.4%	52.0%	60.0%	51.5%	68.2%	50.0%
04. 花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める	48.9%	50.0%	47.9%	45.5%	44.0%	40.0%	54.5%	22.7%	38.5%
05. 駅の周辺などに駐車場や駐輪場を整備する	53.3%	40.0%	38.0%	51.5%	24.0%	20.0%	21.2%	22.7%	34.6%
06. 中小河川の整備などによる災害に強い市街地整備を進める	42.2%	50.0%	42.3%	48.5%	52.0%	53.3%	51.5%	40.9%	23.1%
07. その他	2.2%	0.0%	1.4%	10.6%	4.0%	0.0%	3.0%	4.5%	7.7%

（各地区毎の選択順位 ：第1位 ：第2位 ：第3位）

問 10：南丹市の交通体系の整備について、今後、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。（3つまで選択）

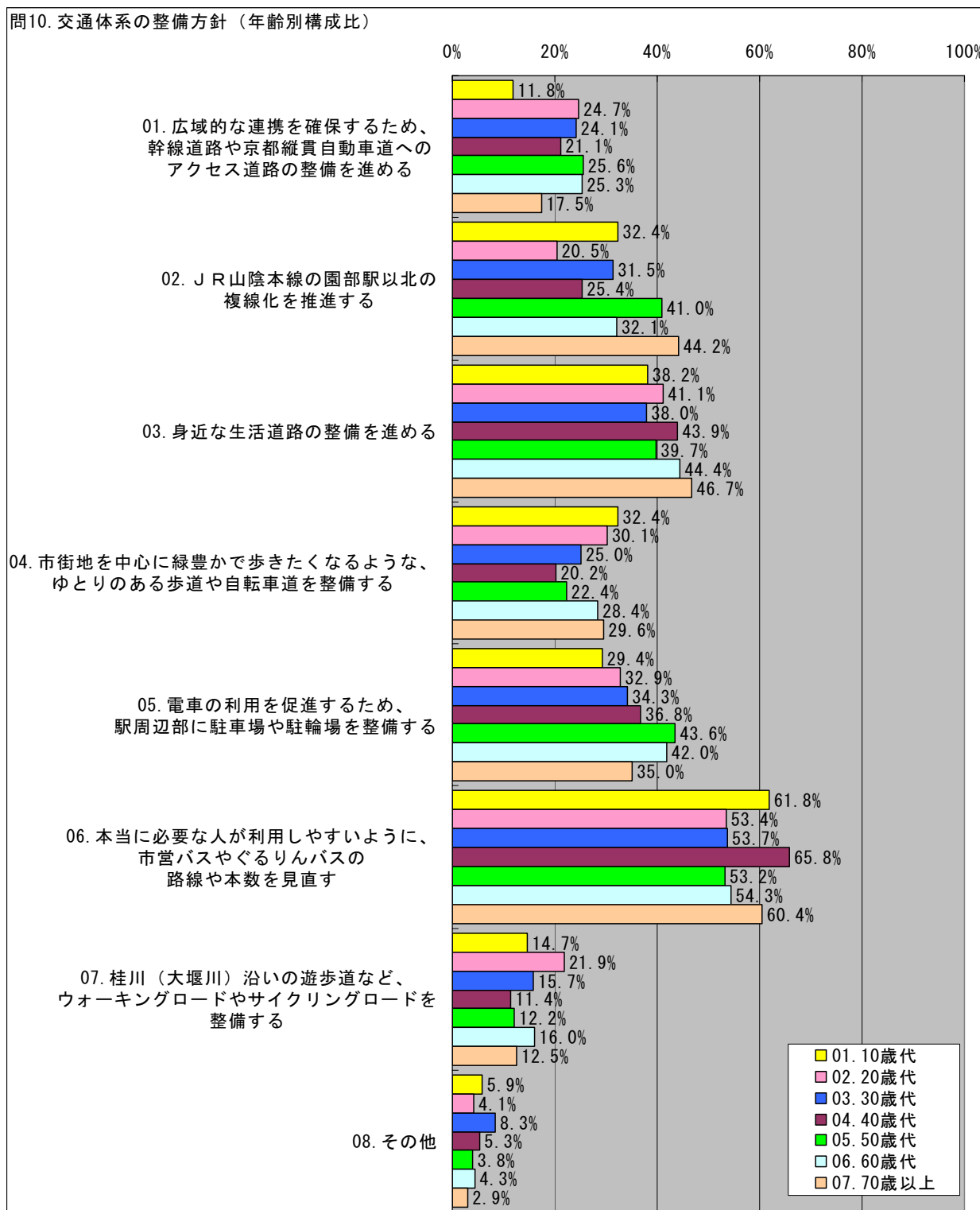
(1) 全体の傾向

交通体系の整備方針については、「06. 本当に必要な人が利用しやすいように、市営バスやぐるりんバスの路線や本数を見直す」(57.3%) が最も多く、半数以上の方が選択しています。次いで「03. 身近な生活道路の整備を進める」(42.8%)、「05. 電車の利用を促進するため、駅周辺部に駐車場や駐輪場を整備する」(37.4%) の順となっており、公共交通や身近な生活環境への関心が高くなっています。



(2) 年齢別の傾向

全体と同様に、「06. 市営バスやぐるりんバスの路線や本数を見直す」が全ての年代で最も多く選択されています。第2位、第3位も全体とほぼ同様の結果となっています。



(3) 地区別の傾向

旧園部町、旧美山町の各地区で「06. 市営バスやぐるりんバスの路線や本数を見直す」が多く選択されており、旧日吉町の山陰本線の沿線の地区では「02. 園部駅以北の複線化を推進する」を選択する方が非常に多くなっています。

表 10 交通体系の整備方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 広域的な連携を確保するため、幹線道路や京都縦貫自動車道へのアクセス道路の整備を進める	21.9%	22.1%	8.8%	14.8%	25.9%	15.2%	16.2%	20.9%	7.4%
02. JR山陰本線の園部駅以北の複線化を推進する	35.1%	31.2%	35.0%	37.0%	33.3%	42.4%	23.5%	13.4%	22.2%
03. 身近な生活道路の整備を進める	42.8%	31.2%	41.3%	59.3%	46.3%	45.5%	41.2%	38.8%	44.4%
04. 市街地を中心に緑豊かで歩きたくなるような、ゆとりのある歩道や自転車道を整備する	26.4%	33.2%	40.0%	29.6%	24.1%	30.3%	32.4%	26.9%	22.2%
05. 電車の利用を促進するため、駅周辺部に駐車場や駐輪場を整備する	37.4%	33.7%	33.8%	18.5%	44.4%	18.2%	47.1%	53.7%	66.7%
06. 本当に必要な人が利用しやすいように、市営バスやぐるりんバスの路線や本数を見直す	57.3%	61.8%	48.8%	63.0%	63.0%	66.7%	44.1%	58.2%	59.3%
07. 桂川（大堰川）沿いの遊歩道など、ウォーキングロードやサイクリングロードを整備する	14.1%	17.1%	22.5%	22.2%	14.8%	18.2%	14.7%	20.9%	22.2%
08. その他	4.5%	5.0%	3.8%	3.7%	3.7%	3.0%	7.4%	7.5%	3.7%

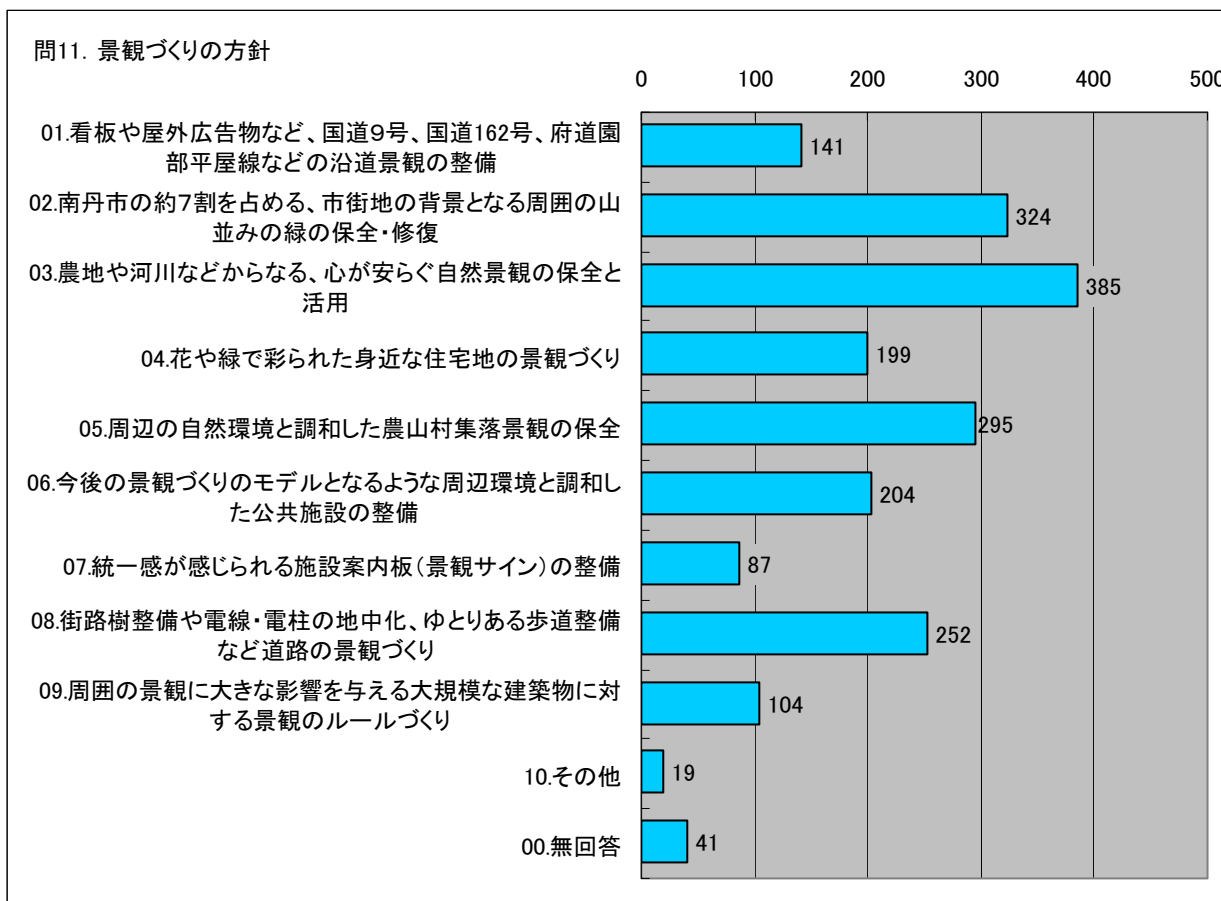
	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 広域的な連携を確保するため、幹線道路や京都縦貫自動車道へのアクセス道路の整備を進める	17.8%	30.0%	23.9%	30.3%	28.0%	40.0%	42.4%	31.8%	19.2%
02. JR山陰本線の園部駅以北の複線化を推進する	28.9%	10.0%	71.8%	74.2%	16.0%	13.3%	27.3%	4.5%	46.2%
03. 身近な生活道路の整備を進める	44.4%	80.0%	40.8%	45.5%	68.0%	86.7%	48.5%	50.0%	53.8%
04. 市街地を中心に緑豊かで歩きたくなるような、ゆとりのある歩道や自転車道を整備する	24.4%	20.0%	19.7%	12.1%	16.0%	6.7%	24.2%	27.3%	3.8%
05. 電車の利用を促進するため、駅周辺部に駐車場や駐輪場を整備する	57.8%	40.0%	35.2%	37.9%	20.0%	20.0%	30.3%	27.3%	23.1%
06. 本当に必要な人が利用しやすいように、市営バスやぐるりんバスの路線や本数を見直す	53.3%	50.0%	47.9%	40.9%	80.0%	86.7%	69.7%	68.2%	76.9%
07. 桂川（大堰川）沿いの遊歩道など、ウォーキングロードやサイクリングロードを整備する	22.2%	10.0%	4.2%	1.5%	0.0%	6.7%	3.0%	4.5%	0.0%
08. その他	4.4%	0.0%	4.2%	3.0%	4.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%

（各地区毎の選択順位 ピンク：第1位 うす黄：第2位 うす青：第3位）

問 11：今後、個性的で魅力ある南丹市の景観づくりを進めていくために、どのようなことに取り組むべきだと考えますか。（3つまで選択）

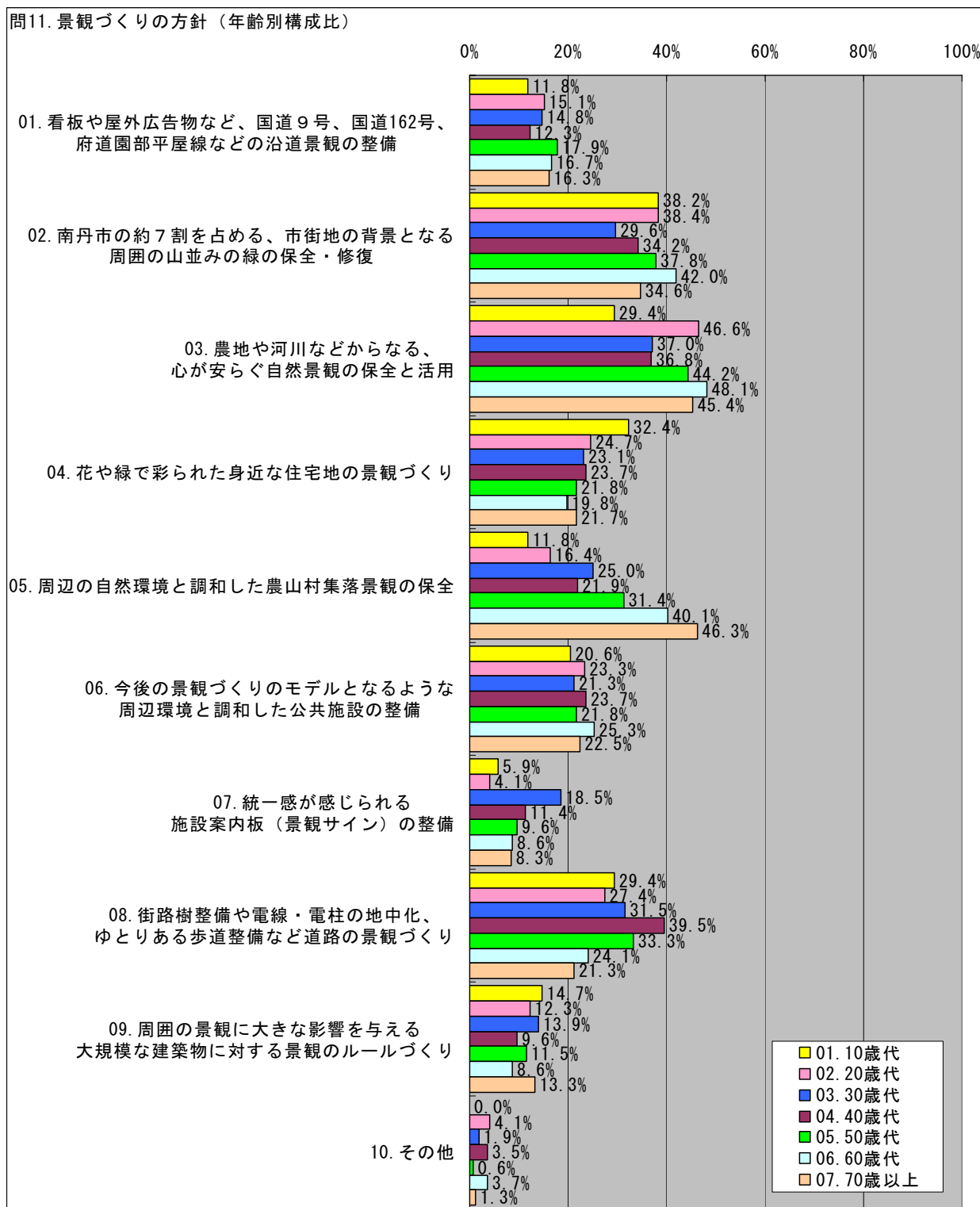
(1) 全体の傾向

景観づくりの方針については、「03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用」(43.1%)、「02. 南丹市の約7割を占める、市街地の背景となる周囲の山並みの緑の保全・修復」(36.3%)、「05. 周辺の自然環境と調和した農山村集落景観の保全」(33.0%)の順で多く、いずれも3割を超える方が選択しています。



(2) 年齢別の傾向

60歳代、70歳以上の年代で、「03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用」、
「05. 周辺の自然環境と調和した農山村集落景観の保全」を選択する割合が高くなっています。



(3) 地区別の傾向

全体とほぼ同様な傾向になっており、旧園部町の市街地など、一部の地区を除いて「03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用」を選択される方が最も多くなっています。

表 11 景観づくりの方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 看板や屋外広告物など、国道9号、国道162号、府道園部平屋線などの沿道景観の整備	15.8%	15.1%	7.5%	22.2%	22.2%	3.0%	13.2%	11.9%	3.7%
02. 南丹市の約7割を占める、市街地の背景となる周囲の山並みの緑の保全・修復	36.3%	37.2%	32.5%	29.6%	46.3%	36.4%	33.8%	22.4%	44.4%
03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用	43.1%	33.7%	30.0%	40.7%	46.3%	66.7%	38.2%	43.3%	48.1%
04. 花や緑で彩られた身近な住宅地の景観づくり	22.3%	26.1%	32.5%	14.8%	16.7%	12.1%	27.9%	31.3%	22.2%
05. 周囲の自然環境と調和した農山村集落景観の保全	33.0%	25.1%	15.0%	48.1%	37.0%	51.5%	17.6%	26.9%	48.1%
06. 今後の景観づくりのモデルとなるような周辺環境と調和した公共施設の整備	22.8%	26.6%	30.0%	25.9%	25.9%	27.3%	20.6%	23.9%	14.8%
07. 統一感が感じられる施設案内板（景観サイン）の整備	9.7%	10.1%	12.5%	3.7%	14.8%	9.1%	4.4%	16.4%	3.7%
08. 街路樹整備や電線・電柱の地中化、ゆとりある歩道整備など道路の景観づくり	28.2%	34.7%	37.5%	55.6%	24.1%	21.2%	30.9%	32.8%	33.3%
09. 周囲の景観に大きな影響を与える大規模な建築物に対する景観のルールづくり	11.6%	15.1%	18.8%	3.7%	14.8%	3.0%	13.2%	10.4%	14.8%
10. その他	2.1%	1.5%	2.5%	0.0%	1.9%	0.0%	4.4%	3.0%	0.0%

	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 看板や屋外広告物など、国道9号、国道162号、府道園部平屋線などの沿道景観の整備	24.4%	20.0%	15.5%	6.1%	40.0%	40.0%	30.3%	22.7%	15.4%
02. 南丹市の約7割を占める、市街地の背景となる周囲の山並みの緑の保全・修復	40.0%	40.0%	43.7%	36.4%	32.0%	33.3%	48.5%	27.3%	23.1%
03. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用	40.0%	60.0%	53.5%	48.5%	64.0%	60.0%	51.5%	50.0%	42.3%
04. 花や緑で彩られた身近な住宅地の景観づくり	17.8%	10.0%	8.5%	21.2%	20.0%	6.7%	21.2%	27.3%	19.2%
05. 周囲の自然環境と調和した農山村集落景観の保全	28.9%	50.0%	40.8%	36.4%	52.0%	60.0%	39.4%	59.1%	50.0%
06. 今後の景観づくりのモデルとなるような周辺環境と調和した公共施設の整備	31.1%	10.0%	19.7%	18.2%	16.0%	20.0%	15.2%	9.1%	11.5%
07. 統一感が感じられる施設案内板（景観サイン）の整備	8.9%	10.0%	11.3%	6.1%	4.0%	13.3%	6.1%	9.1%	19.2%
08. 街路樹整備や電線・電柱の地中化、ゆとりある歩道整備など道路の景観づくり	33.3%	20.0%	19.7%	15.2%	12.0%	26.7%	18.2%	18.2%	15.4%
09. 周囲の景観に大きな影響を与える大規模な建築物に対する景観のルールづくり	13.3%	10.0%	5.6%	6.1%	4.0%	6.7%	18.2%	0.0%	15.4%
10. その他	4.4%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	3.8%

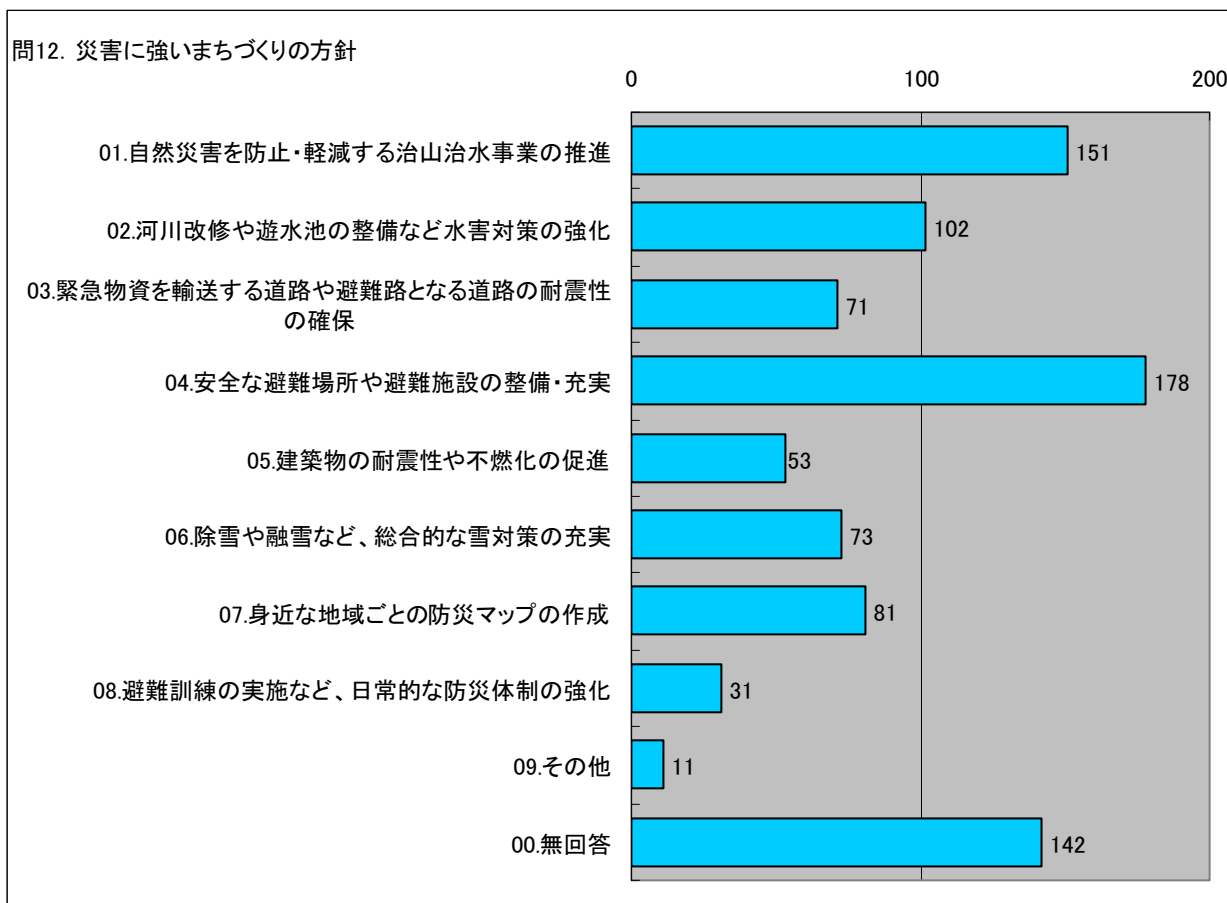
（各地区毎の選択順位 ：第1位 ：第2位 ：第3位）

問 12：今後、災害に強いまちづくりを進めていく上で、どのようなことに取り組むべきだと考えますか。（1つ選択）

(1) 全体の傾向

災害に強いまちづくりについては、「04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実」（19.9%）が最も多く選択されており、次いで「01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進」（16.9%）、「02. 河川改修や遊水池の整備など水害対策の強化」（11.4%）の順となっています。

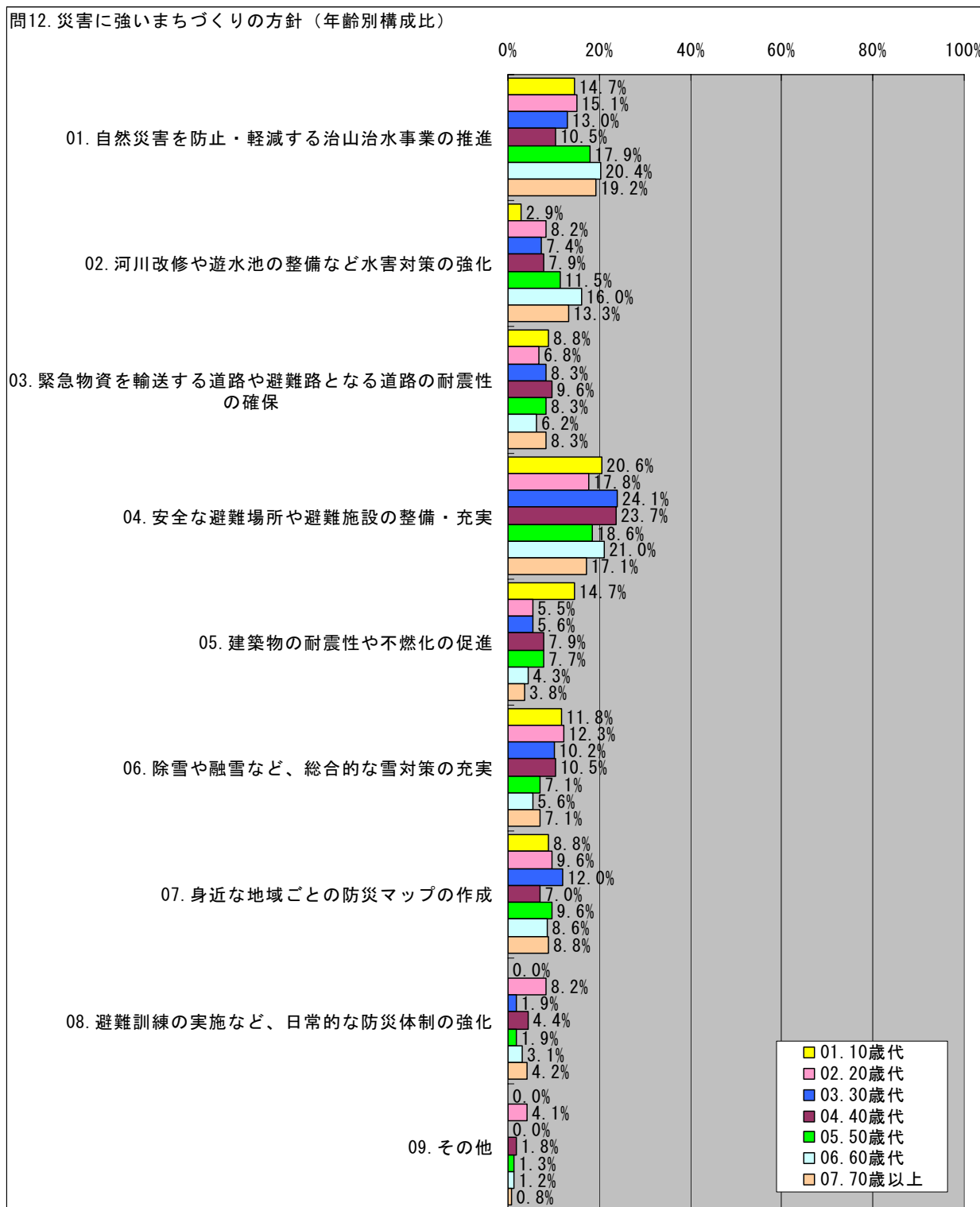
なお、この設問は「1つ選択」のため、複数を選んでいる方は無回答扱いとしています。



(2) 年齢別の傾向

全体とほぼ同様な傾向になっており、70歳以上を除く各年代で「04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実」を選択される方が最も多くなっています。

70歳以上では、「01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進」(19.2%)を選択される方が最も多くなっています。



(3) 地区別の傾向

市街地では「04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実」を選択する方が多く、郊外部や山間部では「01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進」、「06. 除雪や融雪など、総合的な雪対策の充実」を選択される方が多くなっています。

表 12 災害に強いまちづくりの方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進	16.9%	14.1%	18.8%	14.8%	22.2%	24.2%	16.2%	11.9%	18.5%
02. 河川改修や遊水池の整備など水害対策の強化	11.4%	17.1%	5.0%	3.7%	13.0%	18.2%	10.3%	4.5%	7.4%
03. 緊急物資を輸送する道路や避難路となる道路の耐震性の確保	8.0%	6.0%	1.3%	3.7%	9.3%	3.0%	7.4%	10.4%	7.4%
04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実	19.9%	27.1%	22.5%	22.2%	18.5%	18.2%	16.2%	17.9%	18.5%
05. 建築物の耐震性や不燃化の促進	5.9%	5.0%	11.3%	0.0%	0.0%	3.0%	5.9%	14.9%	11.1%
06. 除雪や融雪など、総合的な雪対策の充実	8.2%	5.5%	10.0%	3.7%	3.7%	6.1%	1.5%	1.5%	0.0%
07. 身近な地域ごとの防災マップの作成	9.1%	9.0%	6.3%	25.9%	11.1%	3.0%	16.2%	11.9%	11.1%
08. 避難訓練の実施など、日常的な防災体制の強化	3.5%	4.5%	8.8%	0.0%	5.6%	0.0%	2.9%	9.0%	3.7%
09. その他	1.2%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	1.5%	3.7%

	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進	13.3%	0.0%	18.3%	18.2%	20.0%	20.0%	24.2%	18.2%	15.4%
02. 河川改修や遊水池の整備など水害対策の強化	26.7%	0.0%	12.7%	10.6%	0.0%	6.7%	6.1%	18.2%	0.0%
03. 緊急物資を輸送する道路や避難路となる道路の耐震性の確保	13.3%	10.0%	19.7%	4.5%	8.0%	6.7%	9.1%	9.1%	11.5%
04. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実	20.0%	20.0%	12.7%	18.2%	16.0%	0.0%	18.2%	22.7%	7.7%
05. 建築物の耐震性や不燃化の促進	4.4%	10.0%	2.8%	7.6%	8.0%	13.3%	6.1%	0.0%	0.0%
06. 除雪や融雪など、総合的な雪対策の充実	0.0%	30.0%	8.5%	13.6%	24.0%	33.3%	15.2%	18.2%	23.1%
07. 身近な地域ごとの防災マップの作成	8.9%	10.0%	5.6%	9.1%	4.0%	0.0%	9.1%	0.0%	7.7%
08. 避難訓練の実施など、日常的な防災体制の強化	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%
09. その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

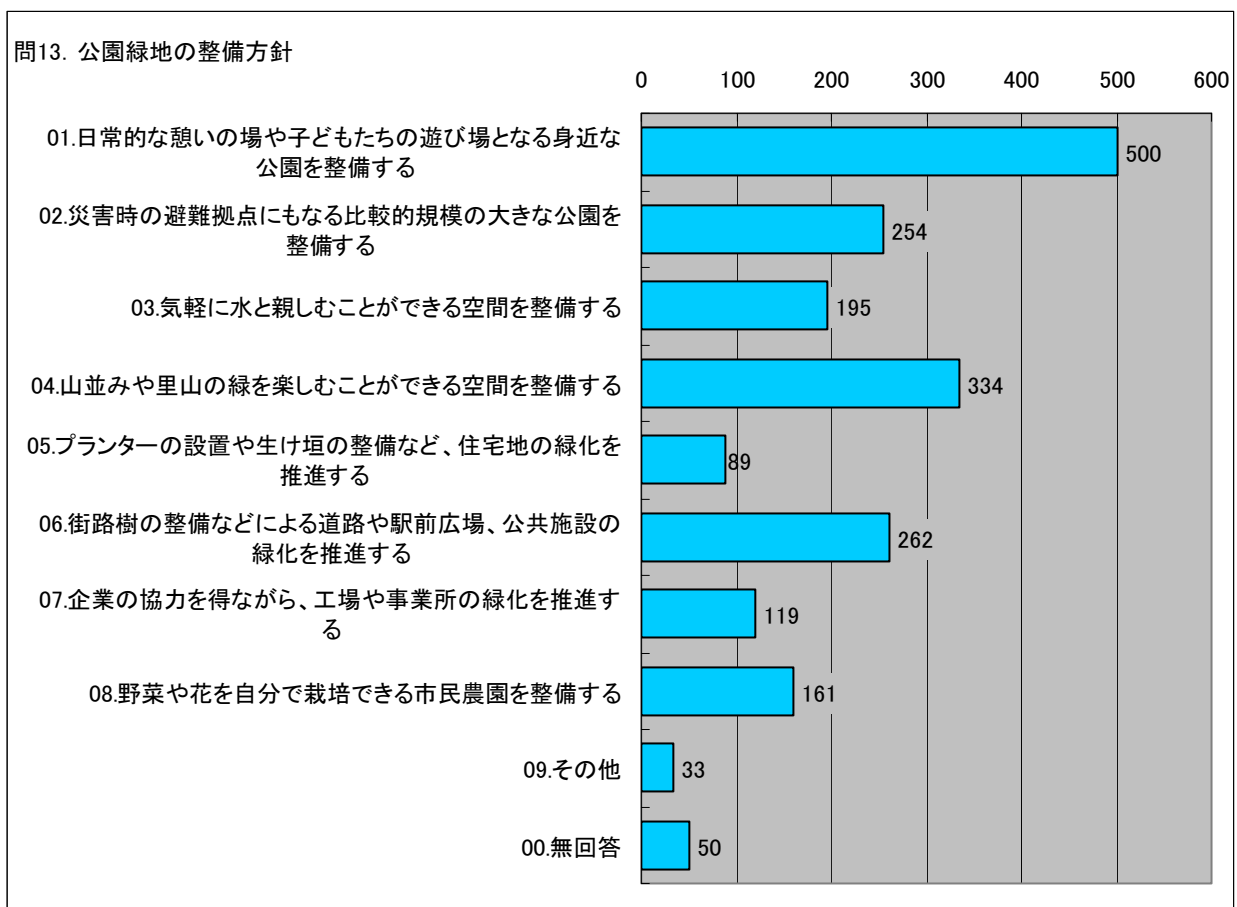
（各地区毎の選択順位 ピンク：第1位 うす黄：第2位 うす青：第3位）

3. 身近な公園や緑化活動について、お聞かせください。

問 13：今後、花や緑に彩られた心やすらぐ都市公園や緑地を整備していくために、どのようなことに取り組んでいくべきだと考えますか。（3つまで選択）

(1) 全体の傾向

公園や緑地の整備方針については、「01. 日常的な憩いの場や子どもたちの遊び場となる身近な公園を整備する」（56.0%）が最も多く、回答者の半数以上の方が選択しています。次いで「04. 山並みや里山の緑を楽しむことができる空間を整備する」（37.4%）、「06. 街路樹の整備などによる道路や駅前広場、公共施設の緑化を推進する」（29.3%）、「02. 災害時の避難拠点にもなる比較的規模の大きな公園を整備する」（28.4%）の順で多く、いずれも約3割の方が選択しています。

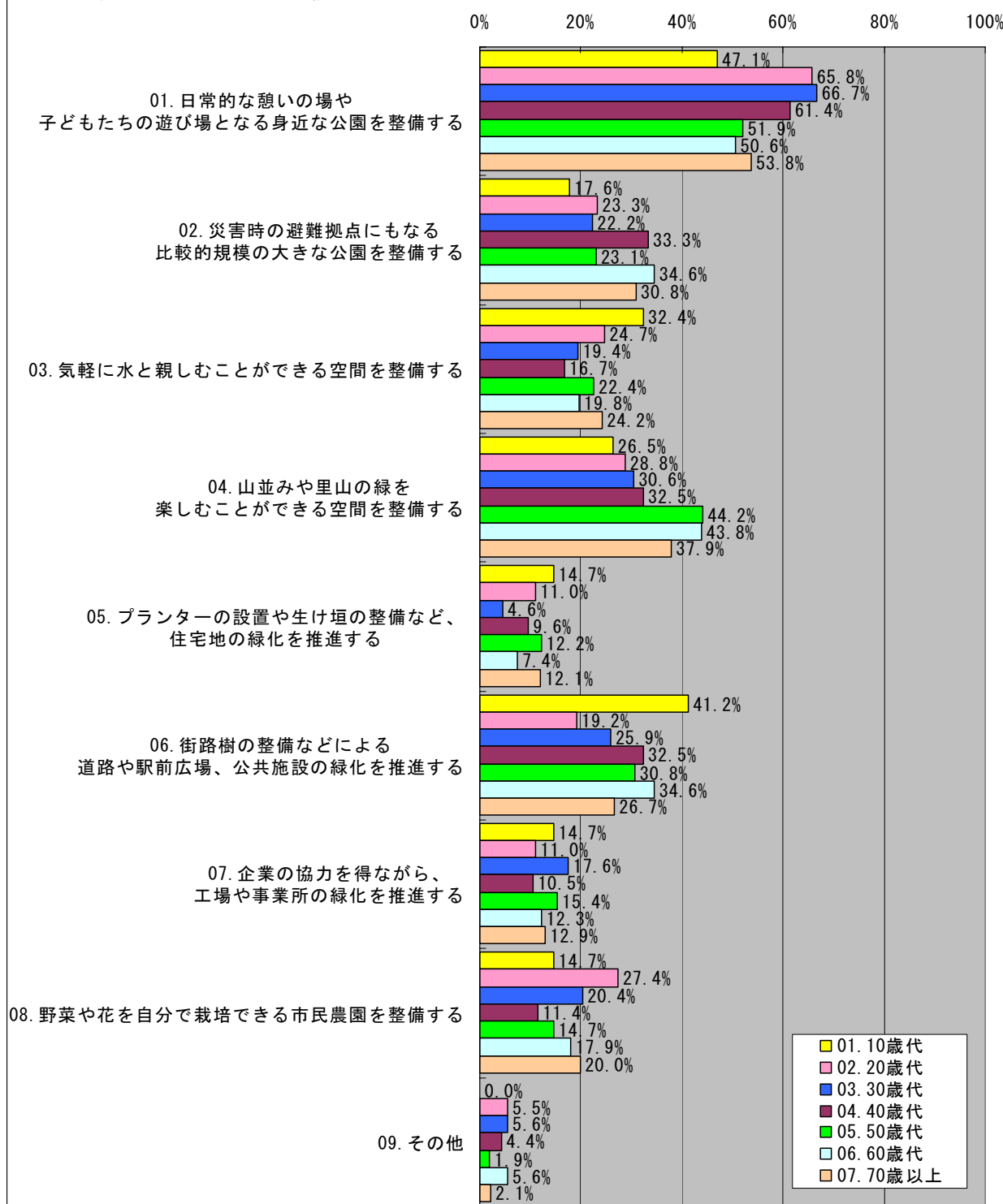


(2) 年齢別の傾向

全体とほぼ同様な傾向にあり、全ての年代で「01. 日常的な憩いの場や子どもたちの遊び場となる身近な公園を整備する」が最も多く選択されています。

50歳代より上の年代では「04. 山並みや里山の緑を楽しむことができる空間を整備する」が多く選択されています。

問13. 公園緑地の整備方針（年齢別構成比）



(3) 地区別の傾向

全体とほぼ同様な傾向にあり、神吉小学校区、及び旧美山町の3つの小学校区を除く地区で「01. 日常的な憩いの場や子どもたちの遊び場となる身近な公園を整備する」が最も多く選択されています。

表 13 公園緑地の整備方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 日常的な憩いの場や子どもたちの遊び場となる身近な公園を整備する	56.0%	59.8%	58.8%	63.0%	53.7%	45.5%	66.2%	44.8%	66.7%
02. 災害時の避難拠点にもなる比較的規模の大きな公園を整備する	28.4%	28.6%	31.3%	25.9%	24.1%	24.2%	30.9%	34.3%	25.9%
03. 気軽に水と親しむことができる空間を整備する	21.8%	23.1%	23.8%	25.9%	25.9%	24.2%	19.1%	16.4%	14.8%
04. 山並みや里山の緑を楽しむことができる空間を整備する	37.4%	36.2%	28.8%	37.0%	35.2%	45.5%	25.0%	34.3%	40.7%
05. プランターの設置や生け垣の整備など、住宅地の緑化を推進する	10.0%	10.6%	10.0%	11.1%	14.8%	15.2%	2.9%	9.0%	3.7%
06. 街路樹の整備などによる道路や駅前広場、公共施設の緑化を推進する	29.3%	30.7%	40.0%	18.5%	22.2%	15.2%	45.6%	43.3%	22.2%
07. 企業の協力を得ながら、工場や事業所の緑化を推進する	13.3%	16.1%	13.8%	18.5%	7.4%	18.2%	7.4%	14.9%	14.8%
08. 野菜や花を自分で栽培できる市民農園を整備する	18.0%	17.1%	18.8%	14.8%	22.2%	30.3%	16.2%	22.4%	18.5%
09. その他	3.7%	4.5%	5.0%	3.7%	0.0%	3.0%	2.9%	3.0%	3.7%

	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 日常的な憩いの場や子どもたちの遊び場となる身近な公園を整備する	60.0%	40.0%	50.7%	68.2%	40.0%	80.0%	39.4%	36.4%	53.8%
02. 災害時の避難拠点にもなる比較的規模の大きな公園を整備する	33.3%	20.0%	29.6%	19.7%	32.0%	26.7%	36.4%	27.3%	19.2%
03. 気軽に水と親しむことができる空間を整備する	20.0%	10.0%	14.1%	24.2%	28.0%	13.3%	30.3%	36.4%	15.4%
04. 山並みや里山の緑を楽しむことができる空間を整備する	42.2%	60.0%	33.8%	33.3%	64.0%	53.3%	42.4%	50.0%	50.0%
05. プランターの設置や生け垣の整備など、住宅地の緑化を推進する	6.7%	0.0%	14.1%	10.6%	12.0%	6.7%	6.1%	13.6%	11.5%
06. 街路樹の整備などによる道路や駅前広場、公共施設の緑化を推進する	42.2%	40.0%	22.5%	25.8%	28.0%	13.3%	15.2%	22.7%	11.5%
07. 企業の協力を得ながら、工場や事業所の緑化を推進する	13.3%	30.0%	12.7%	7.6%	12.0%	20.0%	15.2%	13.6%	11.5%
08. 野菜や花を自分で栽培できる市民農園を整備する	13.3%	20.0%	18.3%	15.2%	12.0%	20.0%	12.1%	18.2%	23.1%
09. その他	2.2%	0.0%	1.4%	3.0%	4.0%	13.3%	6.1%	0.0%	3.8%

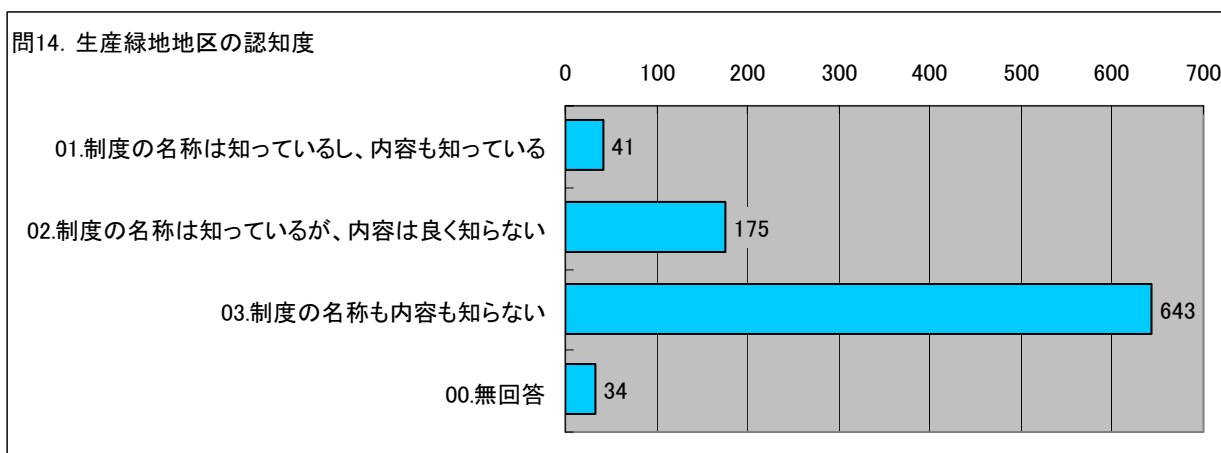
（各地区毎の選択順位 ：第1位 ：第2位 ：第3位）

問 14：南丹市では、現在生産緑地地区^(注)の決定に向けて取り組みを進めており、平成 22 年度から指定を開始する予定です。この制度のことをご存知でしたか。(1つ選択)

(注) 生産緑地地区とは、市街化区域内の一定の要件を満たす土地のうち、将来にわたり農地または緑地として残すべき土地を自治体が指定し、農林漁業の調和、都市環境の保全を図る制度です。

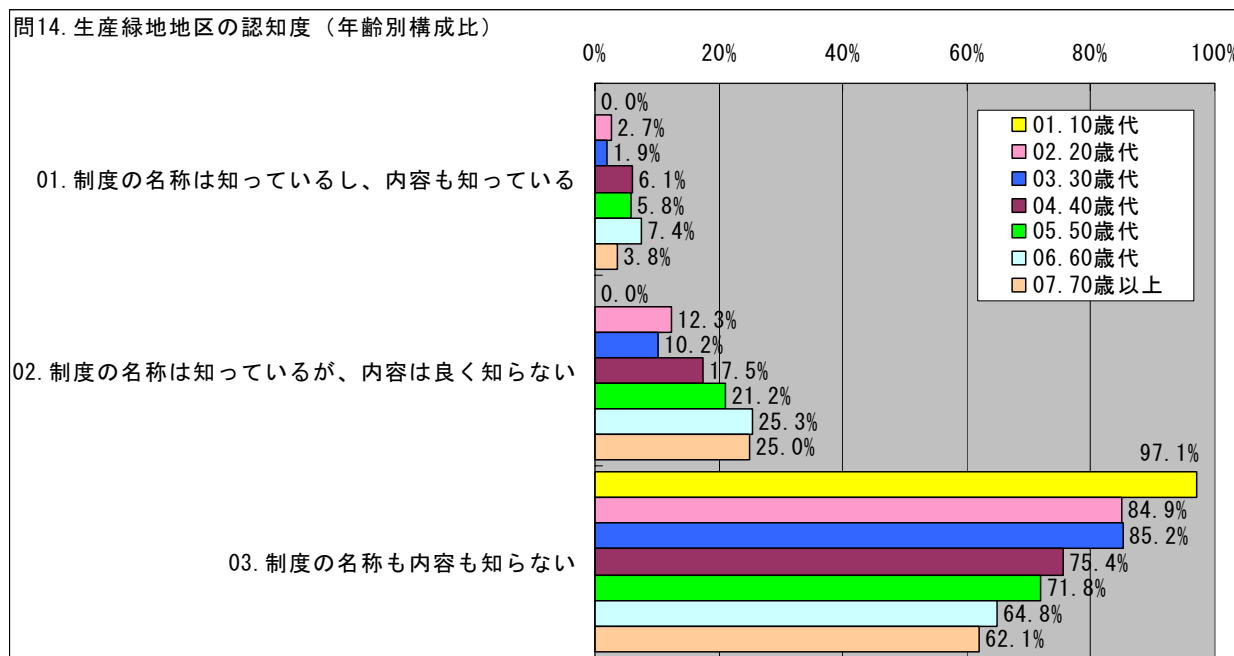
(1) 全体の傾向

生産緑地地区の認知度については、「03. 制度の名称も内容も知らない」(72.0%)が最も多く、7割以上の方が選択しています。一方、「01. 制度の名称は知っているし、内容も知っている」(4.6%)は少数に留まっています。



(2) 年齢別の傾向

全ての年代で「03. 制度の名称も内容も知らない」が最も多く選択されていますが、年代が高くなるに従って「02. 制度の名称は知っているが、内容は良く知らない」を選択される方が多くなる傾向にあります。



(3) 地区別の傾向

全体と同様、全ての地区で「03. 制度の名称も内容も知らない」が最も多く選択されています。

表 14 生産緑地地区の認知度（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 制度の名称は知っているし、内容も知っている	4.6%	7.0%	1.3%	3.7%	5.6%	0.0%	0.0%	10.4%	3.7%
02. 制度の名称は知っているが、内容は良く知らない	19.6%	17.1%	13.8%	37.0%	14.8%	24.2%	19.1%	25.4%	18.5%
03. 制度の名称も内容も知らない	72.0%	74.4%	83.8%	51.9%	74.1%	75.8%	79.4%	59.7%	70.4%

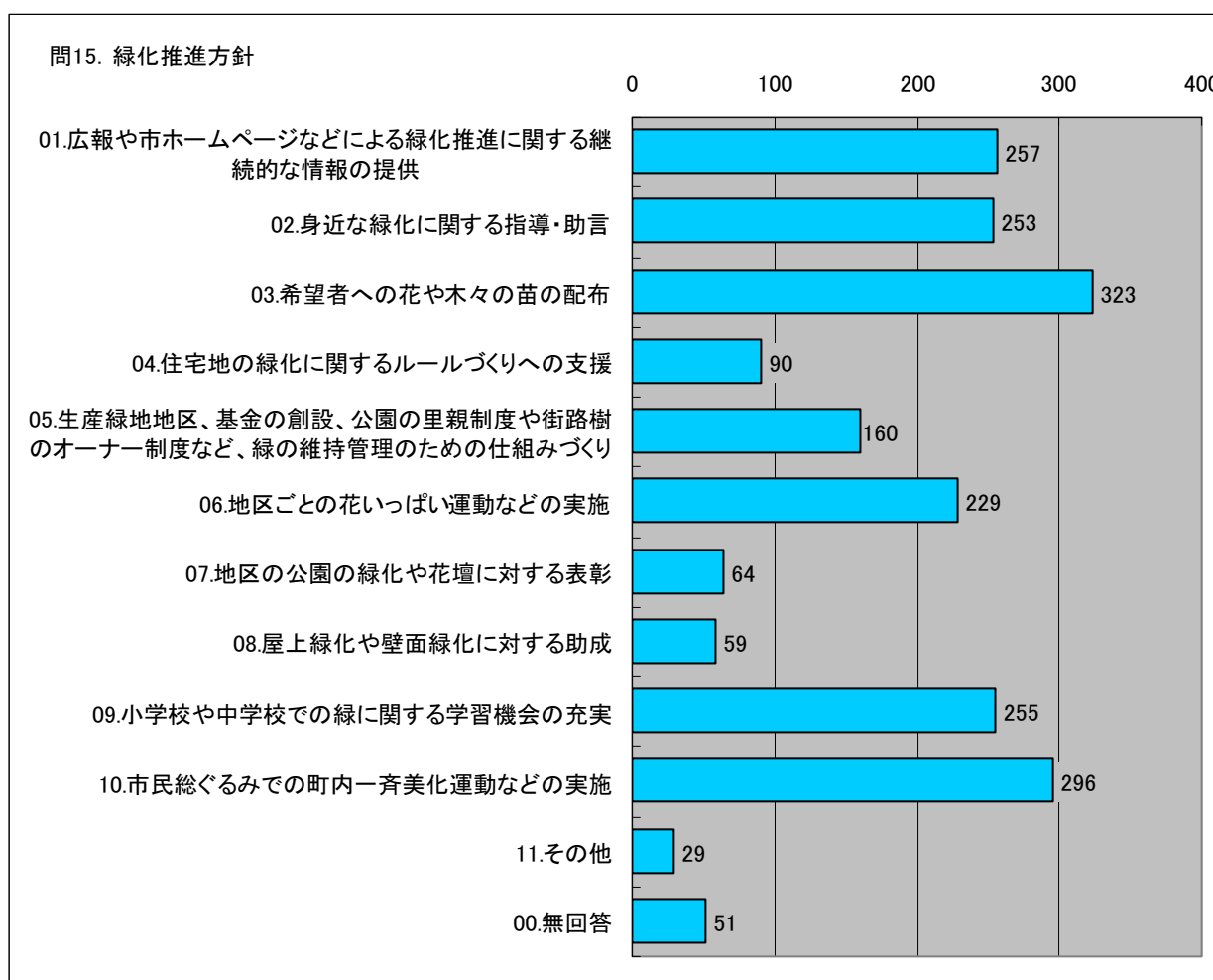
	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 制度の名称は知っているし、内容も知っている	6.7%	0.0%	4.2%	3.0%	4.0%	6.7%	3.0%	4.5%	3.8%
02. 制度の名称は知っているが、内容は良く知らない	26.7%	20.0%	16.9%	15.2%	36.0%	33.3%	24.2%	13.6%	19.2%
03. 制度の名称も内容も知らない	66.7%	80.0%	67.6%	72.7%	60.0%	60.0%	66.7%	77.3%	73.1%

（各地区毎の選択順位 ：第1位

問 15：市民が緑に対する意識を高め、主体的に身近な緑化活動を進めていくために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。（3つまで選択）

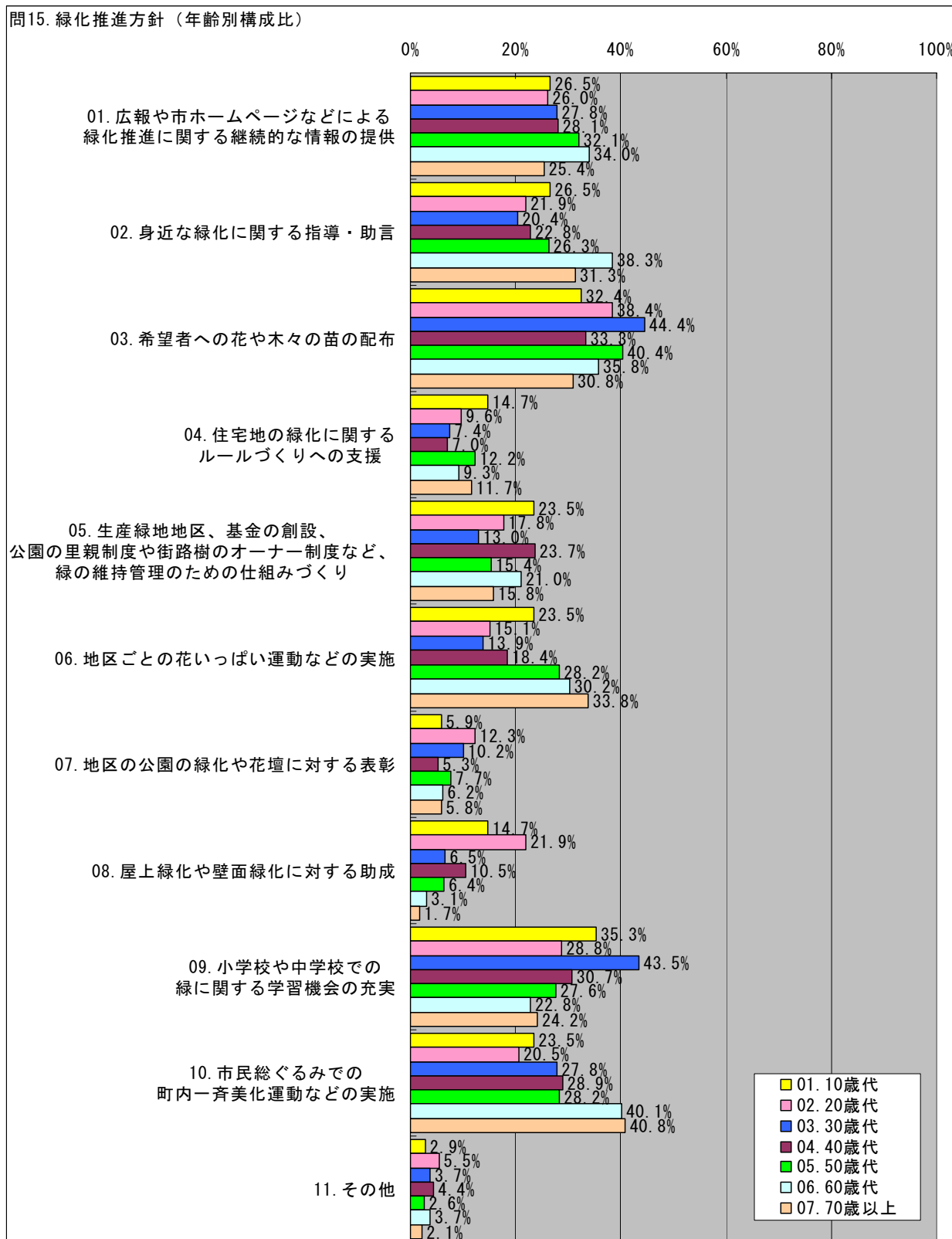
(1) 全体の傾向

身近な緑化活動の推進については、「03. 希望者への花や木々の苗の配布」(36.2%)を最も多くの方が選択しています。次いで、「10. 市民総ぐるみでの市内一斉美化運動などの実施」(33.1%)、「01. 広報や市ホームページなどによる緑化推進に関する継続的な情報の提供」(28.8%)、「09. 小学校や中学校での緑に関する学習機会の充実」(28.6%)、「02. 身近な緑化に関する指導・助言」(28.3%)の順で多くなっています。



(2) 年齢別の傾向

20歳代から50歳代までは「03. 希望者への花や木々の苗の配布」が最も多く選択されており、10歳代では「09. 小学校や中学校での緑に関する学習機会の充実」(37.5%)、60歳代と70歳代では「10. 市民総ぐるみでの市内一斉美化運動などの実施」が最も多く選択されています。



(3) 地区別の傾向

旧園部町では「10. 市民総ぐるみでの市内一斉美化運動などの実施」、旧美山町では「03. 希望者への花や木々の苗の配布」が多く選択される傾向にあります。

表 15 緑化推進方針（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 広報や市ホームページなどによる緑化推進に関する継続的な情報の提供	28.8%	29.6%	38.8%	33.3%	35.2%	21.2%	29.4%	28.4%	25.9%
02. 身近な緑化に関する指導・助言	28.3%	28.6%	16.3%	18.5%	42.6%	27.3%	25.0%	32.8%	14.8%
03. 希望者への花や木々の苗の配布	36.2%	33.2%	42.5%	14.8%	25.9%	27.3%	38.2%	40.3%	40.7%
04. 住宅地の緑化に関するルールづくりへの支援	10.1%	12.6%	11.3%	11.1%	9.3%	15.2%	8.8%	13.4%	14.8%
05. 生産緑地地区、基金の創設、公園の里親制度や街路樹のオーナー制度など、緑の維持管理のための仕組みづくり	17.9%	16.6%	20.0%	14.8%	14.8%	12.1%	17.6%	19.4%	37.0%
06. 地区ごとの花いっぱい運動などの実施	25.6%	23.1%	21.3%	25.9%	20.4%	24.2%	23.5%	31.3%	14.8%
07. 地区の公園の緑化や花壇に対する表彰	7.2%	9.0%	10.0%	7.4%	3.7%	0.0%	7.4%	1.5%	11.1%
08. 屋上緑化や壁面緑化に対する助成	6.6%	9.0%	12.5%	3.7%	1.9%	9.1%	7.4%	4.5%	11.1%
09. 小学校や中学校での緑に関する学習機会の充実	28.6%	29.6%	42.5%	33.3%	27.8%	30.3%	23.5%	25.4%	22.2%
10. 市民総ぐるみでの町内一斉美化運動などの実施	33.1%	35.7%	22.5%	48.1%	33.3%	48.5%	33.8%	29.9%	33.3%
11. その他	3.2%	2.5%	5.0%	7.4%	1.9%	3.0%	2.9%	6.0%	0.0%

	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 広報や市ホームページなどによる緑化推進に関する継続的な情報の提供	22.2%	30.0%	23.9%	19.7%	20.0%	46.7%	18.2%	36.4%	30.8%
02. 身近な緑化に関する指導・助言	48.9%	20.0%	21.1%	22.7%	36.0%	33.3%	24.2%	36.4%	30.8%
03. 希望者への花や木々の苗の配布	37.8%	40.0%	36.6%	31.8%	60.0%	46.7%	39.4%	54.5%	38.5%
04. 住宅地の緑化に関するルールづくりへの支援	13.3%	0.0%	4.2%	10.6%	4.0%	6.7%	9.1%	4.5%	0.0%
05. 生産緑地地区、基金の創設、公園の里親制度や街路樹のオーナー制度など、緑の維持管理のための仕組みづくり	11.1%	20.0%	22.5%	16.7%	28.0%	13.3%	9.1%	27.3%	11.5%
06. 地区ごとの花いっぱい運動などの実施	20.0%	20.0%	26.8%	30.3%	56.0%	33.3%	36.4%	31.8%	26.9%
07. 地区の公園の緑化や花壇に対する表彰	15.6%	10.0%	7.0%	4.5%	4.0%	0.0%	6.1%	9.1%	7.7%
08. 屋上緑化や壁面緑化に対する助成	6.7%	30.0%	5.6%	1.5%	0.0%	0.0%	3.0%	4.5%	3.8%
09. 小学校や中学校での緑に関する学習機会の充実	28.9%	10.0%	29.6%	33.3%	24.0%	20.0%	27.3%	18.2%	15.4%
10. 市民総ぐるみでの町内一斉美化運動などの実施	55.6%	30.0%	42.3%	22.7%	20.0%	26.7%	39.4%	22.7%	23.1%
11. その他	0.0%	0.0%	1.4%	3.0%	8.0%	6.7%	6.1%	0.0%	3.8%

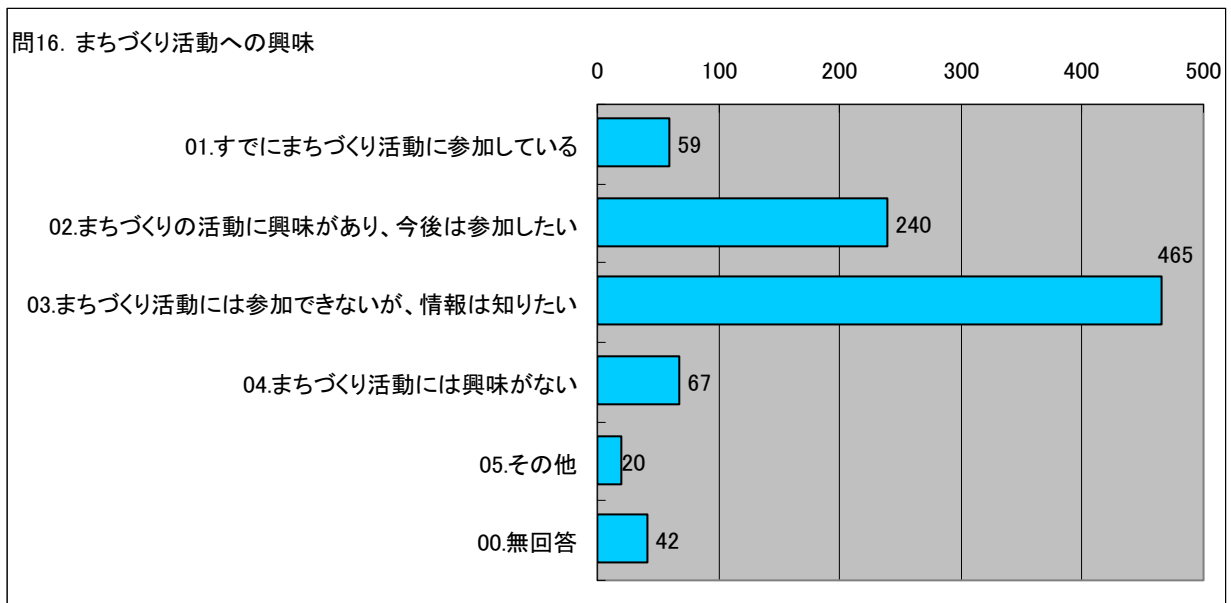
（各地区毎の選択順位 ：第1位 ：第2位 ：第3位）

4. 市民主役のまちづくりについて、お聞かせください。

問 16：まちづくりの活動に興味をお持ちですか。（1つ選択）

(1) 全体の傾向

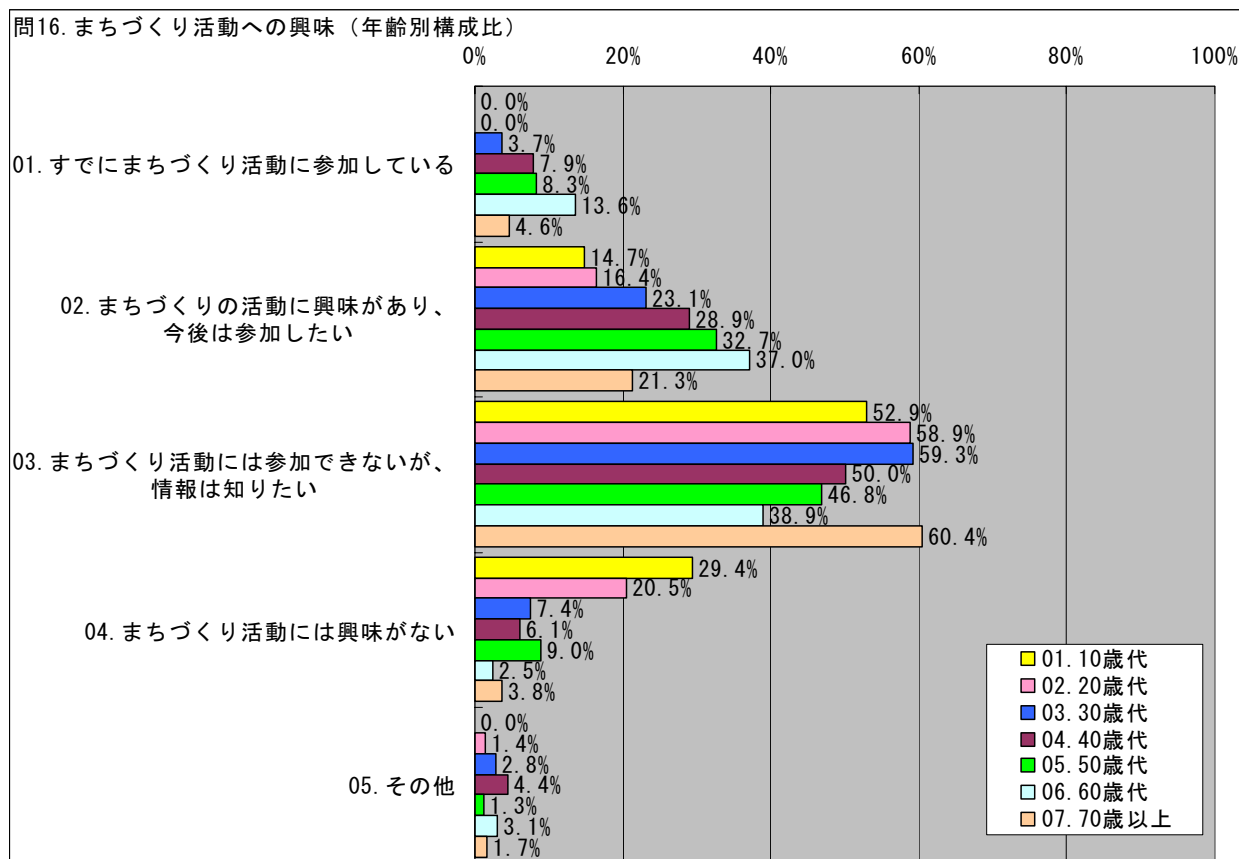
まちづくり活動への興味については、「03. まちづくり活動には参加できないが、情報は知りたい」（52.1%）を半数以上の方が選択しています。次いで、「02. まちづくりの活動に興味があり、今後は参加したい」（26.9%）が多く選択されています。一方、「04. まちづくり活動には興味がない」（7.5%）は少数に留まっています。



(2) 年齢別の傾向

全ての年代で「03.まちづくり活動には参加できないが、情報は知りたい」が最も多く選択されています。

60歳代までは、年代が高くなるに従って「02.まちづくりの活動に興味があり、今後は参加したい」を選択される方が多くなっています。一方、10歳代では約3割が「04.まちづくり活動には興味がない」（29.4%）を選択しています。



(3) 地区別の傾向

全体と同様、全ての地区で「03. まちづくり活動には参加できないが、情報は知りたい」が最も多く選択されています。

表 16 まちづくり活動への興味（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. すでにまちづくり活動に参加している	6.6%	5.0%	5.0%	7.4%	3.7%	6.1%	4.4%	10.4%	7.4%
02. まちづくりの活動に興味があり、今後は参加したい	26.9%	28.1%	23.8%	25.9%	33.3%	33.3%	20.6%	25.4%	29.6%
03. まちづくり活動には参加できないが、情報は知りたい	52.1%	53.8%	56.3%	48.1%	51.9%	48.5%	58.8%	52.2%	51.9%
04. まちづくり活動には興味がない	7.5%	6.5%	11.3%	7.4%	3.7%	6.1%	10.3%	4.5%	3.7%
05. その他	2.2%	2.5%	1.3%	3.7%	0.0%	0.0%	2.9%	1.5%	3.7%

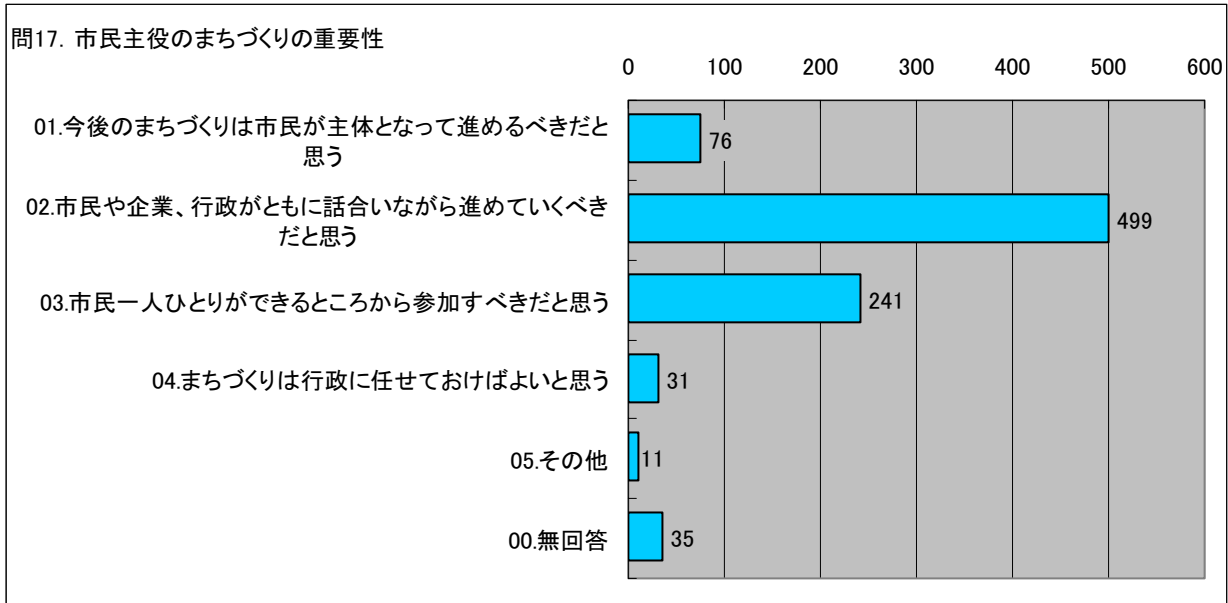
	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. すでにまちづくり活動に参加している	11.1%	0.0%	7.0%	3.0%	4.0%	20.0%	15.2%	18.2%	3.8%
02. まちづくりの活動に興味があり、今後は参加したい	37.8%	20.0%	26.8%	30.3%	28.0%	26.7%	21.2%	13.6%	23.1%
03. まちづくり活動には参加できないが、情報は知りたい	40.0%	40.0%	49.3%	53.0%	56.0%	53.3%	54.5%	54.5%	50.0%
04. まちづくり活動には興味がない	11.1%	40.0%	2.8%	3.0%	8.0%	0.0%	3.0%	4.5%	19.2%
05. その他	0.0%	0.0%	5.6%	3.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%

（各地区毎の選択順位 ：第1位 ：第2位

問17：市民役のまちづくりの重要性について、お聞かせください。（1つ選択）

(1) 全体の傾向

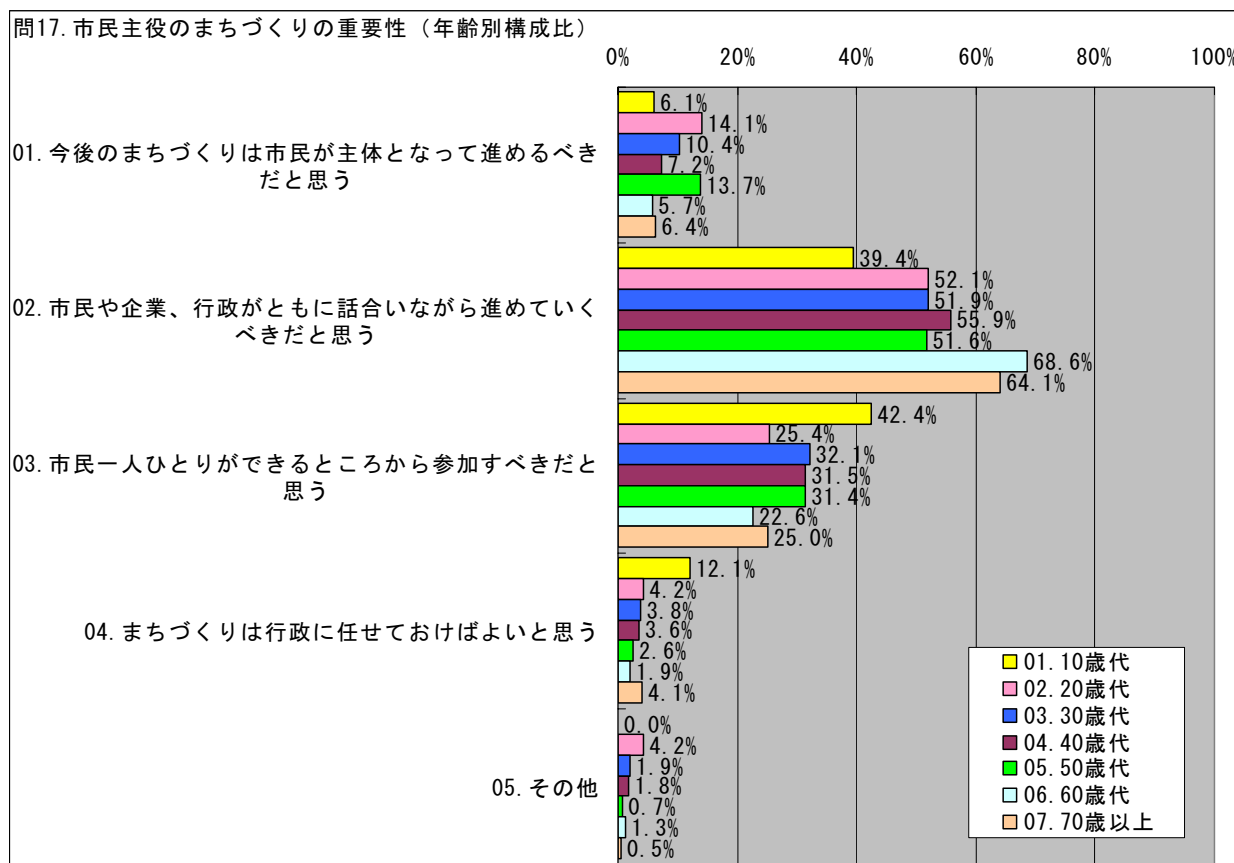
市民役のまちづくりの重要性については、「02. 市民や企業、行政がともに話し合いながら進めていくべきだと思う」（55.9%）を半数以上の方が選択されています。次いで、「03. 市民一人ひとりができることから参加すべきだと思う」（27.0%）、「01. 今後のまちづくりは市民が主体となって進めるべきだと思う」（8.5%）の順となっています。



(2) 年齢別の傾向

20歳代以上の各年代で、半数以上の方が「02. 市民や企業、行政がともに話し合いながら進めていくべきだと思う」を選択しており、特に60歳代、70歳以上では6割以上となっています。

10歳代では「03. 市民一人ひとりができるところから参加すべきだと思う」(42.4%)が最も多く選択されています。



(3) 地区別の傾向

全体と同様、全ての地区で「02. 市民や企業、行政がともに話し合いながら進めていくべきだと思う」が最も多く選択されています。

表 17 市民主役のまちづくりの重要性（地区別構成比）

	全体	01. 園部	02. 園部第二	03. 川辺	04. 摩気	05. 西本梅	06. 八木	07. 富本	08. 新庄
01. 今後のまちづくりは市民が主体となって進めるべきだと思う	8.5%	7.0%	7.5%	7.4%	11.1%	18.2%	7.4%	9.0%	7.4%
02. 市民や企業、行政がともに話し合いながら進めていくべきだと思う	55.9%	58.8%	65.0%	70.4%	53.7%	39.4%	58.8%	56.7%	63.0%
03. 市民一人ひとりができることから参加すべきだと思う	27.0%	25.1%	23.8%	14.8%	25.9%	39.4%	30.9%	22.4%	25.9%
04. まちづくりは行政に任せておけばよいと思う	3.5%	3.0%	1.3%	0.0%	3.7%	0.0%	1.5%	3.0%	0.0%
05. その他	1.2%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%

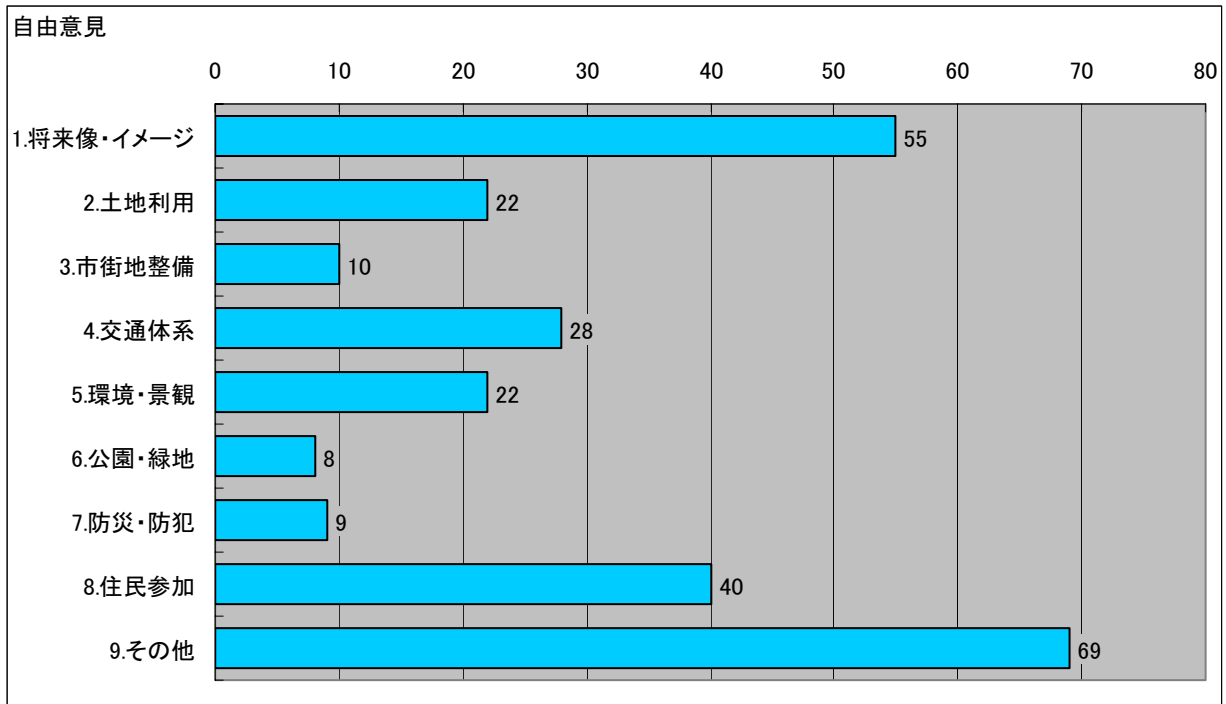
	09. 吉富	10. 神吉	11. 殿田	12. 胡麻郷	13. 平屋	14. 知井	15. 宮島	16. 鶴ヶ岡	17. 大野
01. 今後のまちづくりは市民が主体となって進めるべきだと思う	11.1%	0.0%	4.2%	10.6%	8.0%	6.7%	6.1%	13.6%	11.5%
02. 市民や企業、行政がともに話し合いながら進めていくべきだと思う	55.6%	60.0%	43.7%	47.0%	56.0%	80.0%	60.6%	54.5%	38.5%
03. 市民一人ひとりができることから参加すべきだと思う	24.4%	20.0%	40.8%	31.8%	24.0%	13.3%	24.2%	27.3%	34.6%
04. まちづくりは行政に任せておけばよいと思う	6.7%	20.0%	4.2%	3.0%	12.0%	0.0%	3.0%	0.0%	7.7%
05. その他	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%

（各地区毎の選択順位 **ピンク**：第1位 **うす黄**：第2位

最後に、今後のまちづくりについてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

(1) 回答の状況

自由意見については、248人（263件）の方から意見が得られました。
都市の将来像・イメージや住民参加に関する意見が多くなっています。
その内訳は、以下のとおりです。



(2) 意見の概要

「1. 将来像・イメージ」に関する意見 ----- 55件

- ・ 住みよい、住みたくなるまち
- ・ 子供たちが住み続けたい思えるまち
- ・ 夢と希望の持てるまち
- ・ 若者が元気になるまち
- ・ 地域の個性を活かしたまちづくり
- ・ 自然を大切にしたいまちづくり

「2. 土地利用」に関する意見 ----- 22件

- ・ 商業地の整備（配置）
- ・ 企業誘致
- ・ 住宅地の整備
- ・ 用途の制限

「3. 市街地整備」に関する意見 ----- 10 件

- ・計画的な町中の整備
- ・まちの中心の整備
- ・福祉施設の整備
- ・レクリエーション施設の整備

「4. 交通体系」に関する意見 ----- 28 件

- ・JRの利便性の向上
- ・バス、コミュニティバスの利便性向上
- ・公共交通機関の充実
- ・道路の整備
- ・歩道や自転車道、通学路の整備
- ・駐輪場の整備

「5. 環境・景観」に関する意見 ----- 22 件

- ・自然環境の保全
- ・環境への配慮（ゴミのポイ捨て）
- ・農村風景、農山村景観の保全
- ・屋外広告物の規制
- ・緑化の推進

「6. 公園・緑地」に関する意見 ----- 8 件

- ・子どもがゆっくり遊べる公園の整備
- ・魅力的な大型遊具を備えた公園の整備
- ・自然を生かしたレクリエーション施設の整備
- ・安心して遊べる公園の整備

「7. 防災・防犯」に関する意見 ----- 9 件

- ・街灯の設置
- ・水害を防ぐための山林の管理
- ・家屋等への防災対策、指導の充実
- ・災害に備えた河川の整備、改修

「8. 住民参加」に関する意見 ----- 40 件

- ・住民意見の反映
- ・住民意識の啓発
- ・住民参加の仕組みづくり
- ・住民と行政の協働のまちづくり
- ・情報開示の推進

「9. その他」に関する意見 ----- 69 件

- ・農林業の活性化、農林業後継者の確保・育成
- ・行政改革の推進
- ・市民交流の推進
- ・地域格差の解消
- ・その他

あなたの声から始まる市民主役のまちづくり

～ 南丹市都市計画マスタープランの策定のための市民アンケート調査 ～

市民各位

平成 18 年 1 月に園部町、八木町、日吉町、美山町が合併し南丹市がスタートして、3 年が経過しようとしています。これまでの間に、南丹市は「南丹市総合振興計画」を策定し、新しいひとつの市として着実にまちづくりを進めてきています。

今後のまちづくりは、本格化する少子高齢社会のもとで、効率的な都市基盤整備や安全・安心なまちづくりなどへの対応が求められているとともに、地方分権時代のまちづくりにふさわしい個性を最大限に活かしたまちづくりを計画的に進めていく必要があります。特に、これまでの行政主導ではなく、市民の主体的・積極的な活動を基本とした市民主役のまちづくりが強く求められています。

このような状況の中、南丹市では、市民が主役となるまちづくりの実現に向けて、「南丹市都市計画マスタープラン^{*}」の策定作業を進めています。つきましては、市民のみなさんのご意見を計画策定に反映していくため、アンケート調査を実施することになりました。

市民の主体的な活動によって育まれたまちは、個性ある魅力的なまちを形づくり、かけがえのない財産となります。このまちに生まれてよかった、ずっと住み続けたいと思うことができる南丹市を創造していくため、アンケート調査へのご協力をお願い致します。

平成 20 年 12 月 南丹市長 佐々木 稔納

※都市計画マスタープランについては、次ページで説明しています。

▶ ご記入に当たっての注意事項 ◀

- このアンケート調査は、市内在住の 16 歳以上の方を対象として無作為に抽出した 2,000 人の方をお願いしています。
- アンケート調査は、統計的に処理し、目的以外に使用することはありません。
- 宛名のご本人が回答し、アンケート用紙に直接、ボールペンなどで当てはまる番号に○を付けてください。設問によって○の数が変わりますので、注意してください。
- アンケートにご記入の上、同封の返信用封筒に入れていただき（切手を貼る必要はありません）、平成 21 年 1 月 10 日（土）までにご投函ください。

調査に関する
問い合わせ先

南丹市都市計画課

TEL : (0771) 68-0052

FAX : (0771) 63-0654

●南丹市都市計画マスタープランとは

南丹市都市計画マスタープランは、南丹市総合振興計画にもとづいて、創意工夫のもとに市民の意見を反映し、地区別のあるべき「まち」の姿を定めるものです。

おおむね 20 年後の都市の姿を展望したうえで、今後 10 年間のまちづくりの基本的な方向を示します。



国土交通省ホームページ 「絵で見る都市計画」

●身近なまちづくりの例

まちづくりは、新しい道路や公園の整備などだけではありません。

みなさんの身近な地域で行われている身近な取り組みも大切なまちづくりのひとつです。

南丹市では、こうした活動を通じて市民主役のまちづくりを進めていきたいと考えています。



みんなで地域について考える



みんなで身近な緑をふやす



みんなでまちを美しくする

(写真は他都市の事例です)

はじめに、あなた自身のことについて、お聞かせください。

問1：あなたの性別 (○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2：あなたの年齢 (○は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 |
| 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 |
| 7. 70歳以上 | |

問3：あなたのお住まいの地域 (○は1つ)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 園部小学校区 | 2. 園部第二小学校区 | 3. 川辺小学校区 |
| 4. 摩気小学校区 | 5. 西本梅小学校区 | 6. 八木小学校区 |
| 7. 富本小学校区 | 8. 新庄小学校区 | 9. 吉富小学校区 |
| 10. 神吉小学校区 | 11. 殿田小学校区 | 12. 胡麻郷小学校区 |
| 13. 平屋小学校区 | 14. 知井小学校区 | 15. 宮島小学校区 |
| 16. 鶴ヶ岡小学校区 | 17. 大野小学校区 | |
| 18. わからない | | |

↓

※住居表示で「南丹市●●町」の次の地域名をお書きください。(●●は旧4町の名称)

問4：あなたの居住歴 (○は1つ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 南丹市に生まれて、ずっと住んでいる |
| 2. 南丹市に生まれたが、他市町村に住んでいたことがある |
| 3. 府内の他の市町村から転入してきた |
| 4. 府外から転入してきた |

問5：通勤・通学や買物、通院など、日頃、外出する際に最も利用する交通手段は何ですか (○は1つ)

- | | | |
|------------|--------|-----------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. オートバイ (原付含む) |
| 4. 自動車 | 5. 鉄道 | 6. バス (路線バス、コミュニティバス) |
| 7. その他 () | | |

1. 南丹市が目指す将来像について、お聞かせください。

問6：今後、南丹市は、どのような都市を目指して重点的にまちづくりを進めていくべきだと考えますか。 (〇は3つまで)

1. 水や緑が身近にあり、生活環境にうるおいが感じられるまち
2. 子育て環境や医療・福祉サービスが充実した暮らしやすいまち
3. 農地や山林が保全され、農林業に活力のあるまち
4. 工場や流通・研究開発施設など、働く場所がたくさんあるまち
5. 店舗や事務所などが多く、商業に活力があるにぎやかなまち
6. 心が落ち着く街並みがあり、美しい風景が残るまち
7. 歴史や文化を大切にし、芸術活動などが盛んなまち
8. 市民が南丹市に愛着を感じ、市民の主体的なまちづくり活動が活発なまち
9. 京都縦貫自動車道などの交通の利便性を活かして、周辺市町などから広域的に人が集まる施設が多くあるまち
10. その他 ()

問7：旧4町のそれぞれの中心となっていた地区（現在の南丹市役所、各支所の周辺）の今後のあり方について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。 (〇は1つ)

1. 南丹市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら各地区のまちづくりを積極的に進める
2. 現在の機能を維持することを基本として、地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める
3. 分散する各地区のいずれかに機能を集約させ、南丹市の中心拠点として育成していく
4. その他 ()

問 10：南丹市の交通体系の整備について、今後、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。 (〇は3つまで)

1. 広域的な連携を確保するため、幹線道路や京都縦貫自動車道へのアクセス道路の整備を進める
2. JR山陰本線の園部駅以北の複線化を推進する
3. 身近な生活道路の整備を進める
4. 市街地を中心に緑豊かで歩きたくなるような、ゆとりのある歩道や自転車道を整備する
5. 電車の利用を促進するため、駅周辺部に駐車場や駐輪場を整備する
6. 本当に必要な人が利用しやすいように、市営バスやぐるりんバスの路線や本数を見直す
7. 桂川（大堰川）沿いの遊歩道など、ウォーキングロードやサイクリングロードを整備する
8. その他 ()

問 11：今後、個性的で魅力ある南丹市の景観づくりを進めていくために、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。 (〇は3つまで)

1. 看板や屋外広告物など、国道9号、国道162号、府道園部平屋線などの沿道景観の整備
2. 南丹市の約7割を占める、市街地の背景となる周囲の山並みの緑の保全・修復
3. 農地や河川などからなる、心が安らぐ自然景観の保全と活用
4. 花や緑で彩られた身近な住宅地の景観づくり
5. 周囲の自然環境と調和した農山村集落景観の保全
6. 今後の景観づくりのモデルとなるような周辺環境と調和した公共施設の整備
7. 統一感が感じられる施設案内板（景観サイン）の整備
8. 街路樹整備や電線・電柱の地中化、ゆとりある歩道整備など道路の景観づくり
9. 周囲の景観に大きな影響を与える大規模な建築物に対する景観のルールづくり
10. その他 ()

問 12：今後、災害に強いまちづくりを進めていく上で、どのようなことに取り組むべきだと考えますか。 (○は1つ)

1. 自然災害を防止・軽減する治山治水事業の推進
2. 河川改修や遊水池の整備など水害対策の強化
3. 緊急物資を輸送する道路や避難路となる道路の耐震性の確保
4. 安全な避難場所や避難施設の整備・充実
5. 建築物の耐震性や不燃化の促進
6. 除雪や融雪など、総合的な雪対策の充実
7. 身近な地域ごとの防災マップの作成
8. 避難訓練の実施など、日常的な防災体制の強化
9. その他 ()

3. 身近な公園や緑化活動について、お聞かせください。

問 13：今後、花や緑に彩られた心やすらぐ公園や緑地を整備していくために、どのようなことに取り組んでいくべきだと考えますか。 (○は3つまで)

1. 日常的な憩いの場や子どもたちの遊び場となる身近な公園を整備する
2. 災害時の避難拠点にもなる比較的規模の大きな公園を整備する
3. 気軽に水と親しむことができる空間を整備する
4. 山並みや里山の緑を楽しむことができる空間を整備する
5. プランターの設置や生け垣の整備など、住宅地の緑化を推進する
6. 街路樹の整備などによる道路や駅前広場、公共施設の緑化を推進する
7. 企業の協力を得ながら、工場や事業所の緑化を推進する
8. 野菜や花を自分で栽培できる市民農園を整備する
9. その他 ()

問 14：南丹市では、現在生産緑地地区^(注)の決定に向けて取り組みを進めており、平成 22 年度から指定を開始する予定です。この制度のことをご存知でしたか。(○は1つ)

(注) 生産緑地地区とは、市街化区域内の一定の要件を満たす土地のうち、将来にわたり農地または緑地として残すべき土地を自治体が指定し、農林漁業の調和、都市環境の保全を図る制度です。

1. 制度の名称は知っているし、内容も知っている
2. 制度の名称は知っているが、内容は良く知らない
3. 制度の名称も内容も知らない

問 15：市民が緑に対する意識を高め、主体的に身近な緑化活動を進めていくために、どのようなことに取り組んでいくべきだと考えますか。 (○は3つまで)

1. 広報や市ホームページなどによる緑化推進に関する継続的な情報の提供
2. 身近な緑化に関する指導・助言
3. 希望者への花や木々の苗の配布
4. 住宅地の緑化に関するルールづくりへの支援
5. 生産緑地地区、基金の創設、公園の里親制度や街路樹のオーナー制度など、緑の維持管理のための仕組みづくり
6. 地区ごとの花いっぱい運動などの実施
7. 地区の公園の緑化や花壇に対する表彰
8. 屋上緑化や壁面緑化に対する助成
9. 小学校や中学校での緑に関する学習機会の充実
10. 市民総ぐるみでの町内一斉美化運動などの実施
11. その他 ()

4. 市民役のまちづくりについて、お聞かせください。

問 16：まちづくりの活動に興味をお持ちですか。 (○は1つ)

1. すでにまちづくり活動に参加している
2. まちづくりの活動に興味があり、今後は参加したい
3. まちづくり活動には参加できないが、情報は知りたい
4. まちづくり活動には興味がない
5. その他 ()

問 17：市民役のまちづくりの重要性について、お聞かせください。 (○は1つ)

1. 今後のまちづくりは市民が主体となって進めるべきだと思う
2. 市民や企業、行政がともに話し合いながら進めていくべきだと思う
3. 市民一人ひとりができるところから参加すべきだと思う
4. まちづくりは行政に任せておけばよいと思う
5. その他 ()

最後に、今後のまちづくりについてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

～ 以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。～